

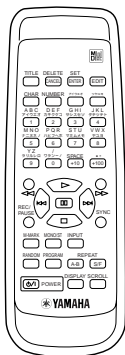
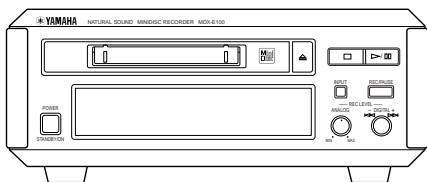


NATURAL SOUND MINIDISC RECORDER

MDX-E100



取扱説明書



このたびは、ヤマハMDレコーダ MDX-E100 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

MDX-E100 の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管してください。

ご使用の前に必ずお読みください

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

もくじ

ページ

安全上のご注意.....	2 ~ 5	はじめに
おもな特長	6	
各部の名称	7 ~ 8	
接続のしかた	9 ~ 13	
リモコンの準備.....	14	
MDの取り扱いかた	15	
MDに録音するには	16 ~ 18	再生 / 録音
MDを再生するには	19 ~ 20	
いろいろな録音のしかた	21 ~ 24	
いろいろな再生のしかた	25 ~ 30	
MDを編集するには	31 ~ 44	編集
デジタル録音のルール	45	ご参考
システム上の制約について	46	
メッセージ表示一覧	47	
故障かな?と思ったら	48 ~ 49	
仕様	50	
ヤマハホットライン サービスネットワーク	51	

安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。



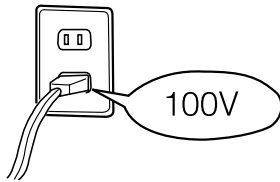
記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

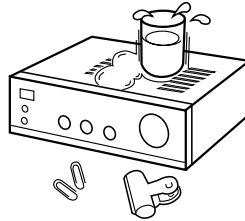
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



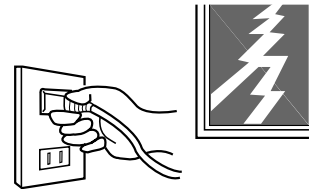
火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

- ⊘ 水を入れたり、ぬらさない



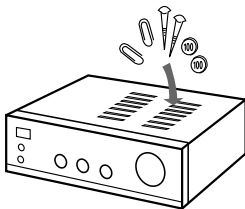
火災・感電の原因となります。本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

- ⊘ 雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



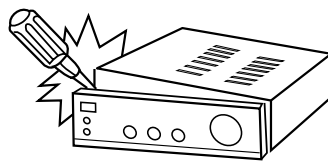
感電の原因となります。

- ⊘ 通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしない



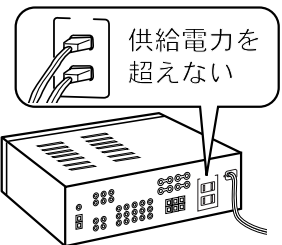
火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- ⊘ 分解・改造を絶対しない (キャビネットをはずすことも含む)



火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- ⊘ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器(電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど)は接続しないでください。

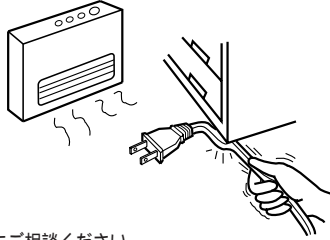


警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

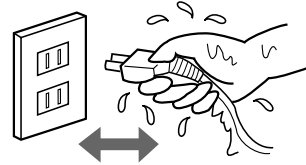
⊘ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない

(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っ張る、束ねる、重いものをのせるなどしない)



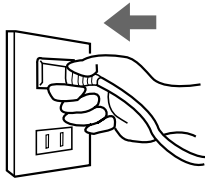
火災・感電の原因となります。
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

⊘ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

⚠ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



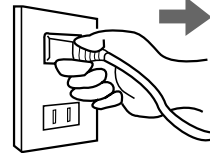
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っ張らないでください。
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

⚠ 電源プラグのほこりなどは定期的にとる



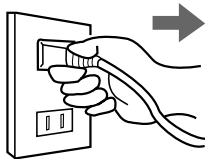
プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

⚠ 機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



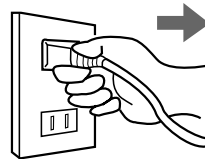
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 煙が出たり変なおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠ 落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

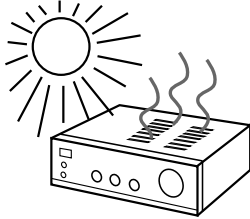
安全上のご注意



注意

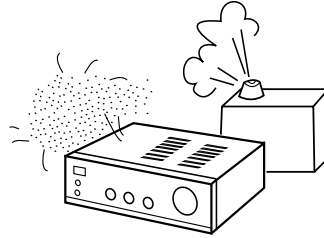
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



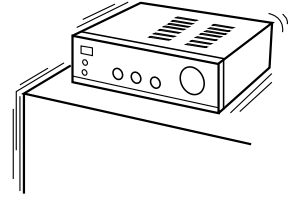
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



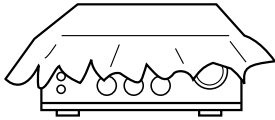
火災・感電の原因となります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



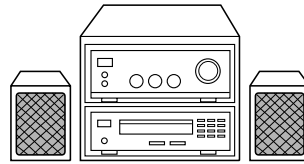
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

- ⊘ 通風孔をふさがない



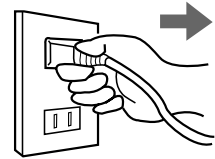
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となりますので、次の点に注意してください。
テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。
本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

- ⚠ 放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く



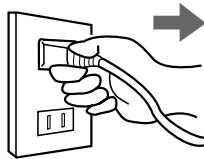
火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。

- 🔌 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



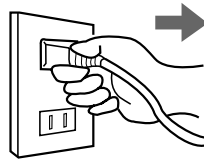
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- 🔌 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



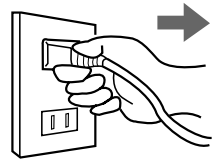
コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

- 🔌 お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となります。

- 🔌 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



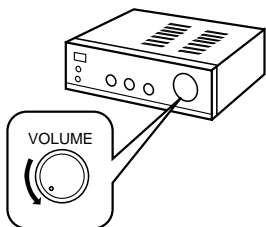
火災の原因となることがあります。



注意

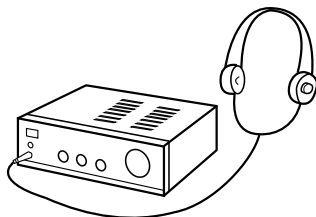
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 電源を入れる前には音量を最小にする



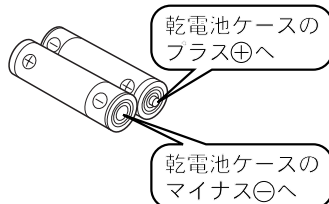
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

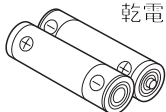
⚠ 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)通りに入れる



間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

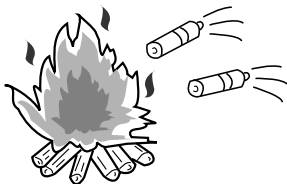
⊘ 指定以外の乾電池は使用しない

取扱説明書に記載されている乾電池を使用する



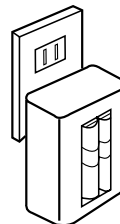
また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

⊘ 乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因となります。

⊘ 乾電池は充電しない



液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因となります。

⚠ アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

⚠ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

おもな特長

モノラルで記録された音声信号の録音 / 再生が可能です。

サンプリングレートコンバーターを内蔵しているため、48kHz、32kHzのデジタル信号は44.1kHzにレート変換されて録音されます。

アナログ信号だけでなく、デジタル信号の録音レベルも調節することができます。

下記のようなMDディスクならではの、録音編集を楽しむことができます。

イレース機能 (曲やタイトルを消す)

ムーブ機能 (曲の移動)

ディバイド機能 (曲を分ける)

コンバイン機能 (曲をつなぐ)

トラックライト
TOC Write機能 (TOCの書き込み)

フラ フリーリーレコーダブルエリア
FRA(Freely Recordable Area) チェック機能 (ディスクの記録できる部分の復旧)

タイトル
TITLE機能 (曲やディスクにタイトルを付ける)

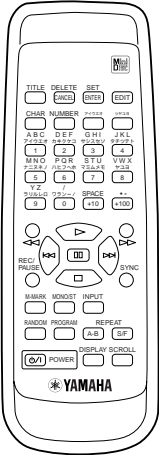
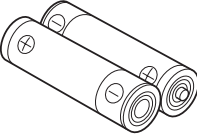
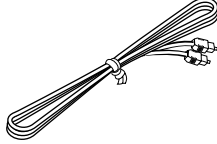
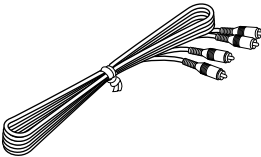
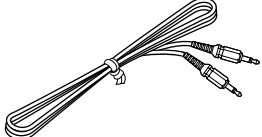
ヤマハレシーバRX-E100、CDプレーヤーCDX-E100、カセットデッキKX-E100とシステム接続することにより、便利な機能をいろいろ楽しむことができます。

多機能ワイヤレスリモコンにより、お手軽に操作できます。

はじめに、次のことをお確かめください。

- 1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか。
- 2 付属品はすべてそろっていますか。

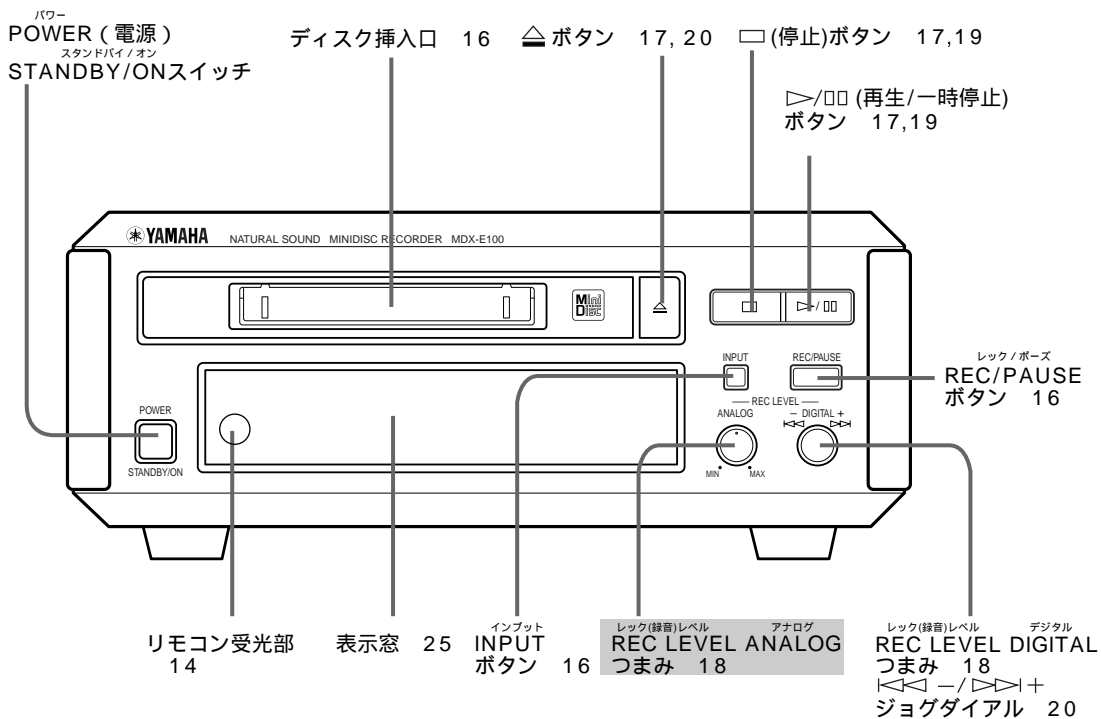
付属品

<p>リモコンx1</p> 	<p>単3電池x2</p> 	<p>光ファイバーケーブルx1 (長さ:0.6m)</p> 
	<p>オーディオ接続コードx2 (長さ:1.0m)</p> 	<p>コントロールコードx1 (長さ:1.0m)</p> 
		<p>取扱説明書x1 保証書x1</p>

各部の名称

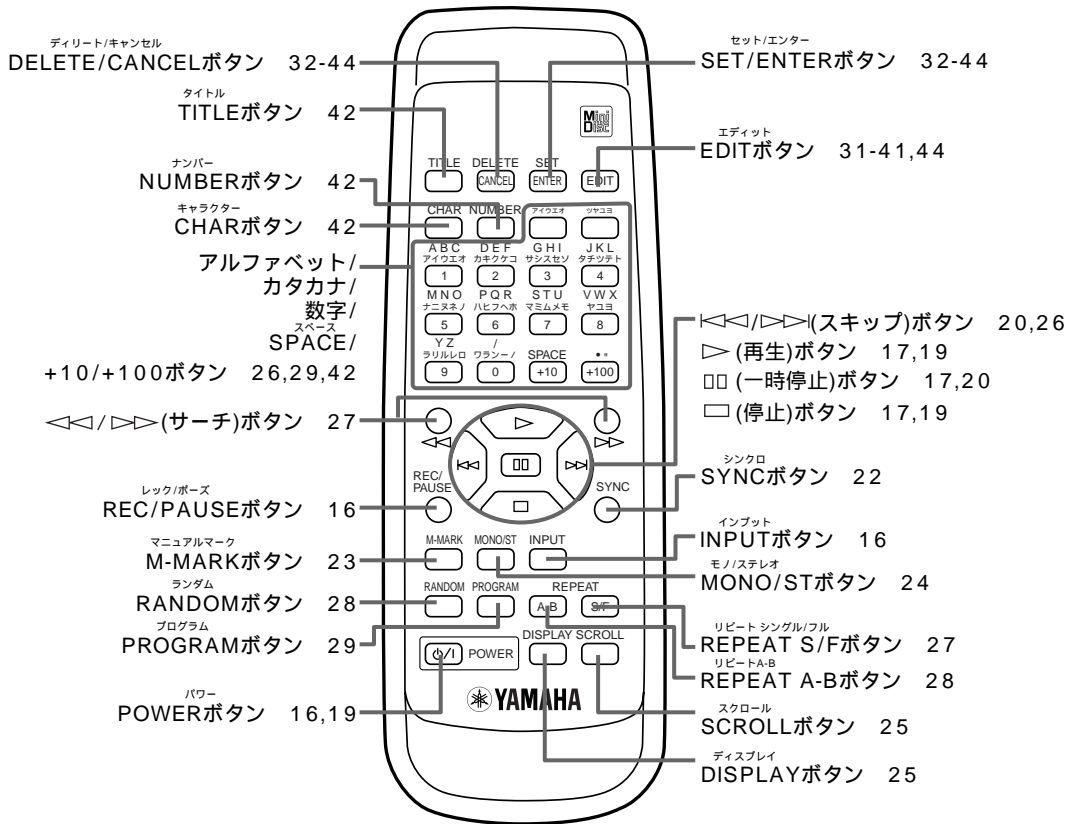
フロントパネル

は本体でのみ操作できます。

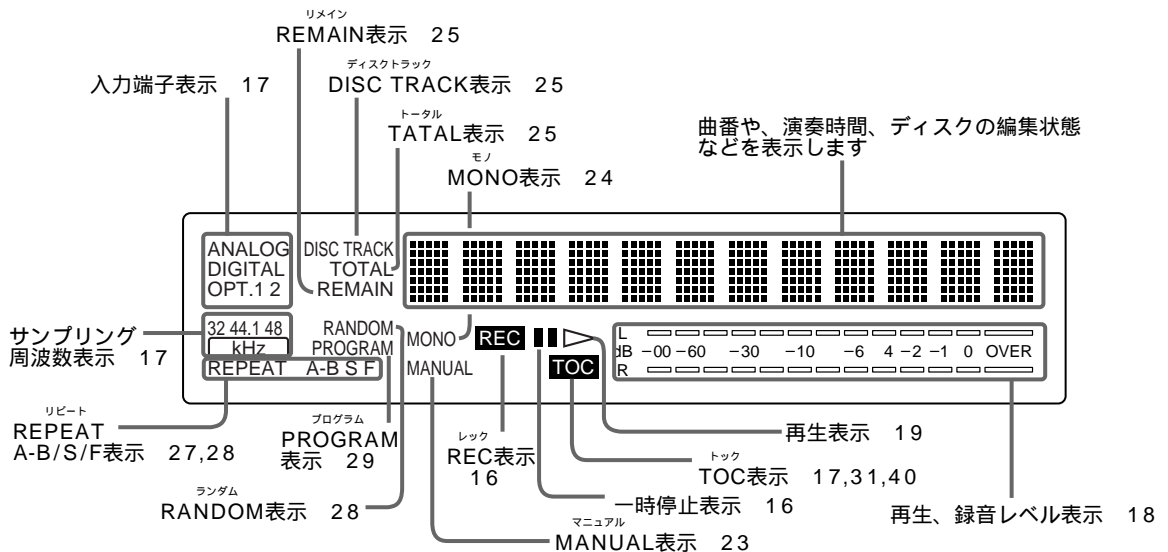


各部の名称

リモコン



表示窓



接続のしかた

ヤマハCRX-E100とシステム接続するときは、9、10ページ、お手持ちのアンプ、レシーバまたはデジタル機器と接続するときは11、12ページ、電源コードの接続については、13ページをご覧ください。

接続上のご注意

接続は、本機および接続する機器の電源プラグをコンセントから抜いた状態で行ってください。接続コードは最後までしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まれていないと、雑音が出る原因になります。

接続がすべて終わったあと、電源コードをコンセントに差し込んでください。

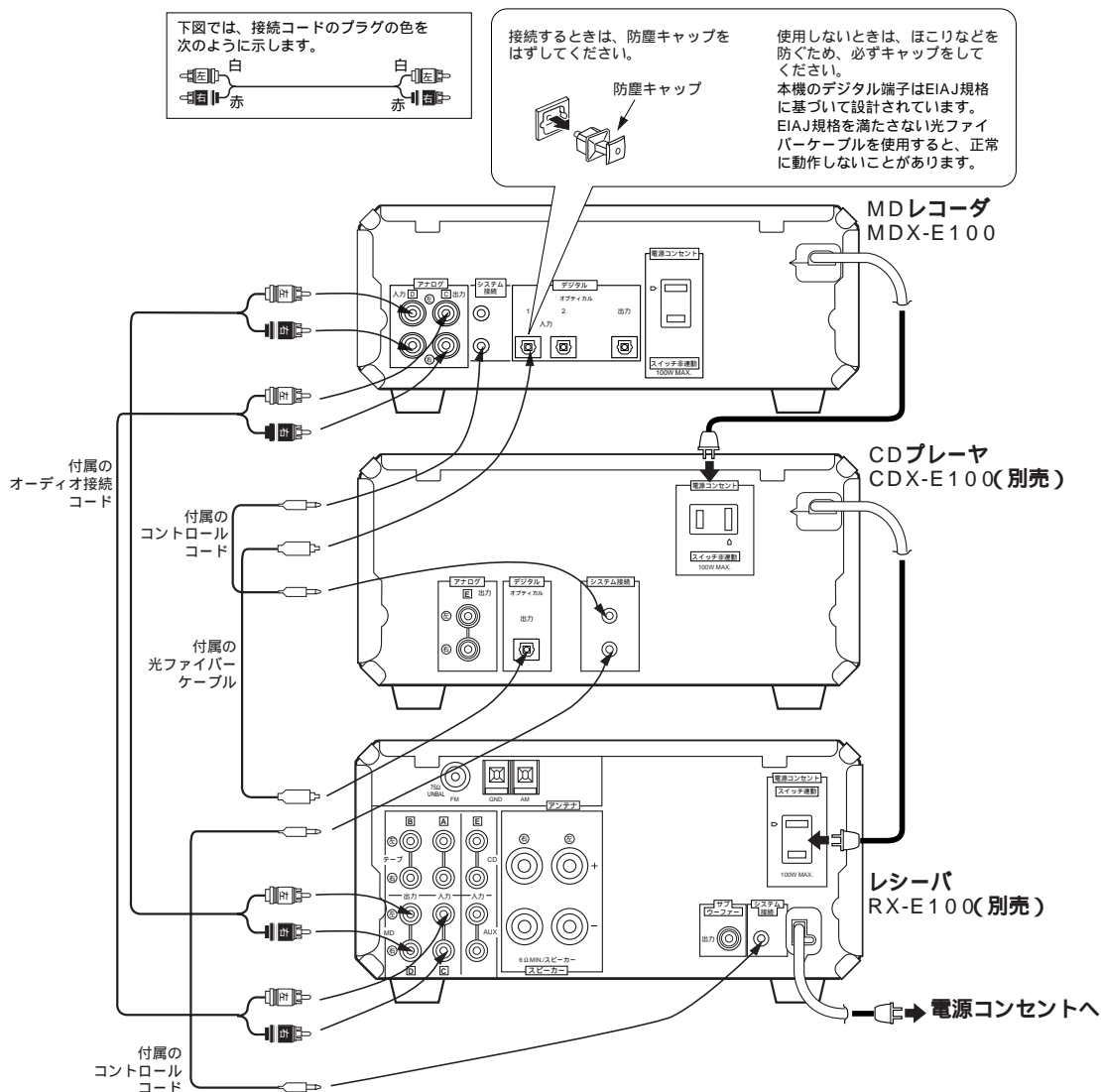
システム接続

ヤマハレシーバRX-E100/CDプレーヤCDX-E100(CRX-E100)と本機の[C] [D] がついた端子どうしをオーディオ接続コードでつなぎます。⑥端子には接続コードの赤のプラグを、⑤端子には白のプラグを接続します。

システム接続端子をコントロールコードでつなぎます。

CDプレーヤCDX-E100のデジタルオプティカル出力端子と本機のデジタルオプティカル入力端子を光ファイバーケーブルでつなぎます。

光ファイバーケーブルを使って接続する時は、ケーブルの先についているキャップを取り外してください。



デジタル機器との接続

本機はデジタルオプティカル入力端子(2)とデジタル出力端子(1)を装備していますので、CRX-E100とのシステム接続以外に他のデジタル機器を接続することができます。

デジタルオプティカル端子をつなぐ

2台目のCDプレーヤ、MDレコーダまたはDATデッキなどのデジタルオプティカル出力端子とMDX-E100のデジタルオプティカル入力端子をつなぐと、MDX-E100にデジタル録音できます。

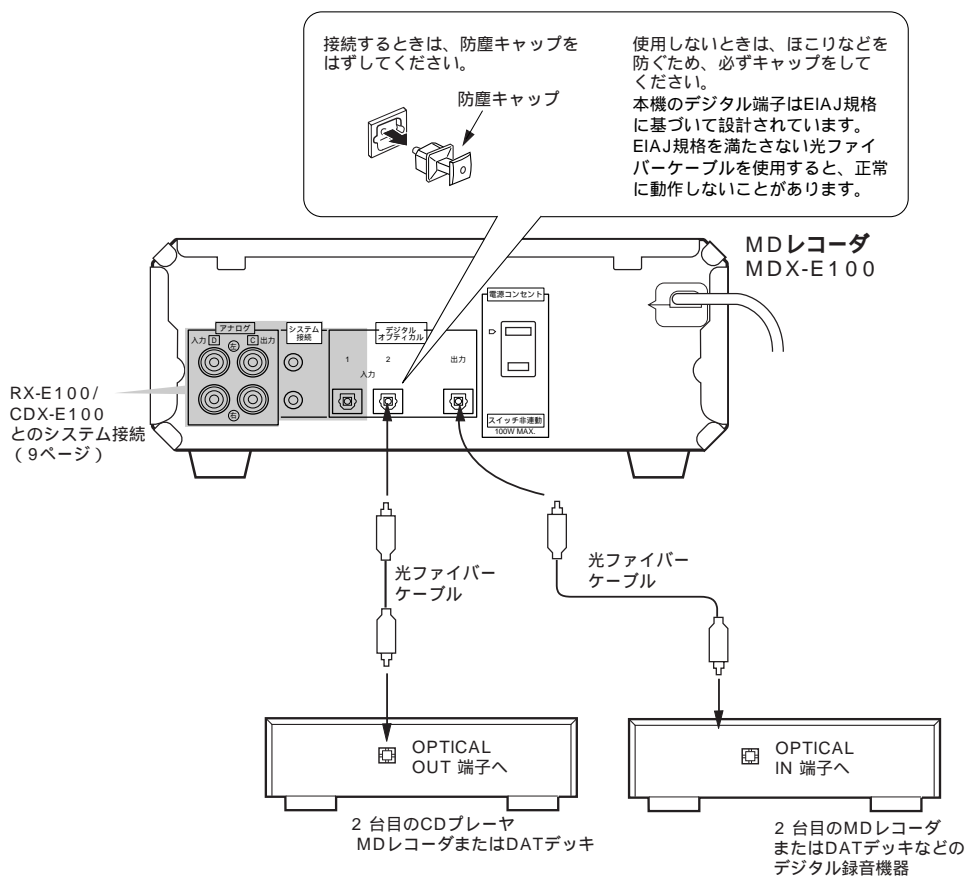
また、2台目のMDレコーダまたはDATデッキのデジタルオプティカル入力端子とMDX-E100のデジタルオプティカル出力端子をつなぐとこれらのデジタル録音機器にデジタル録音できます。

本機には光ファイバークーブルが1本付属していますが、必要に応じて市販の光ファイバークーブルをお求めください。

光ファイバークーブルを使って接続する時は、ケーブルの先についているキャップを取り外してください。

本機は「シリアルマネージメントシステム」に準拠しています。

デジタル録音したMDをさらにデジタル録音することはできません。(45ページ)

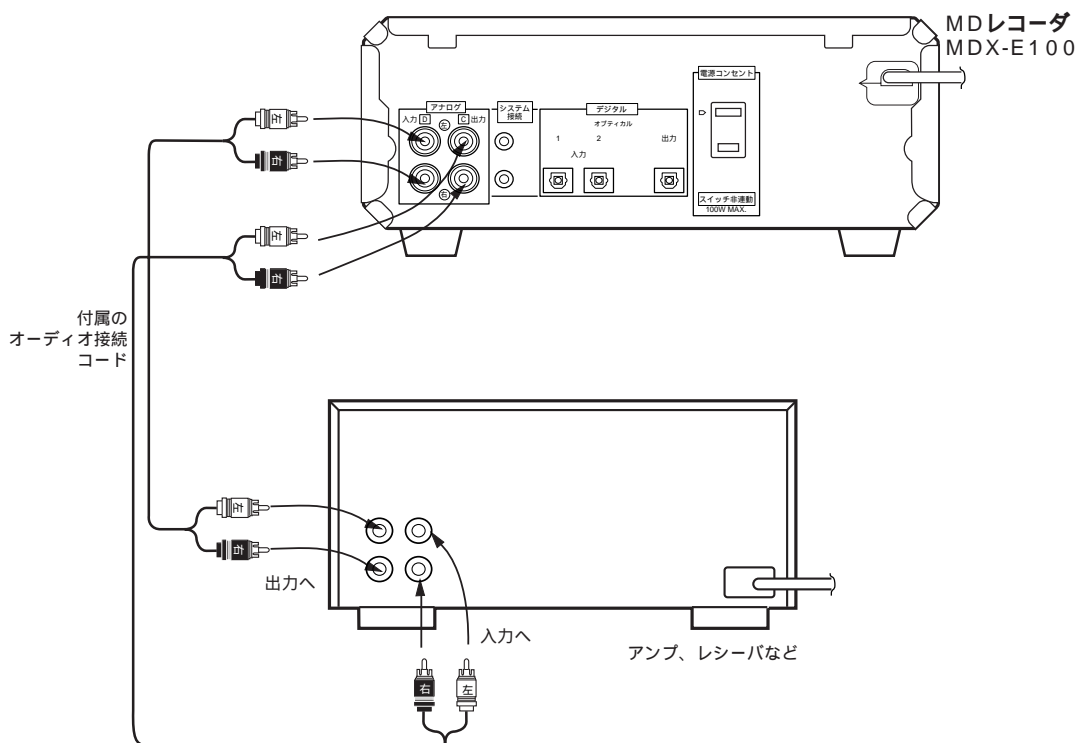


お手持ちのアンプなどとの接続

本機はお手持ちのアンプやレシーバとつないでお使いいただくことができます。この場合は、システム接続できませんので、付属のコントロールコードは使用できません。

本機のアナログ入出力端子とアンプやレシーバなどのMD入出力端子(アナログ)を付属のオーディオ接続コードでつなぎます。(右チャンネル \oplus 、左チャンネル \ominus)を必ず確認してください。)

機器によっては接続方法や端子名が異なる場合があります。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



接続のしかた

デジタル機器との接続

アンプやレシーバなどにMD用のデジタルオプティカル入出力端子がある場合は、本機のデジタルオプティカル入出力端子を光ファイバークーブルでつなぎます。

また、アンプやレシーバと接続せずに直接CDプレーヤ、DATデッキまたは2台目のMDレコーダなどのデジタルオプティカル端子と接続することもできます。

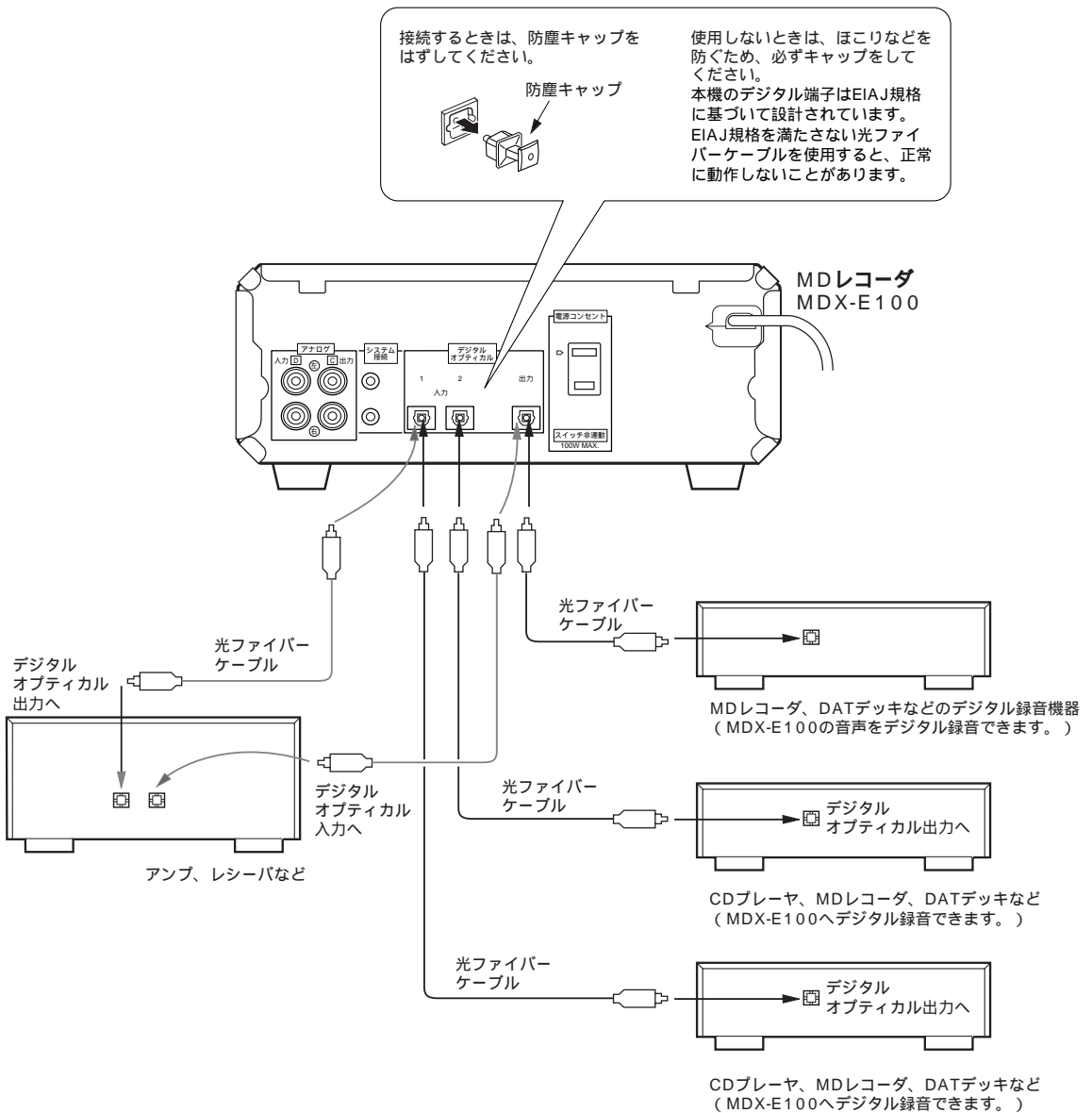
本機には光ファイバークーブルが1本付属していますが、必要に応じて市販の光ファイバークーブルをお求めください。

光ファイバークーブルを使って接続する時は、クーブルの先についているキャップを取り外してください。

本機は「シリアルマネージメントシステム」に準拠しています。

デジタル録音したMDをさらにデジタル録音することはできません。(45ページ)

接続のしかた

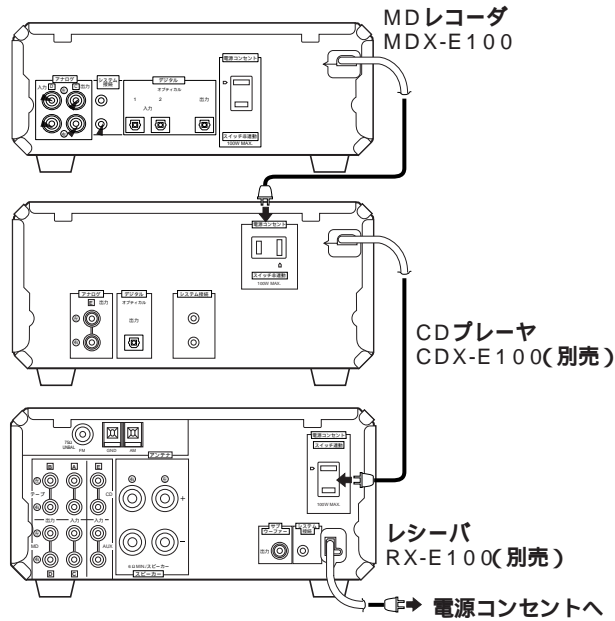


電源コードの接続

接続が終わったあと、電源コードを接続します。

CRX-E100とシステム接続している場合

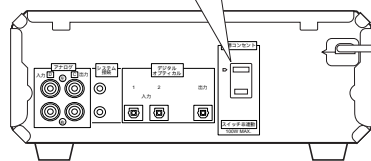
CDプレーヤCDX-E100またはレシーバRX-E100の背面の電源コンセントにつなぎます。



お手持ちのアンプなどと接続している場合

アンプやレシーバなどの背面の電源コンセント、または壁の電源コンセント(100V、50/60Hz)につなぎます。

電源コンセント
外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントです。本機のPOWERスイッチのON/OFFとは無関係に、消費電力100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。



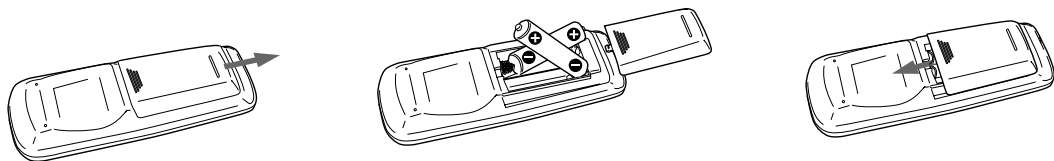
ACコンセント
100V(50/60Hz)

本機の電源コードには電源トランスの巻始めが極性表示(白線または文字入り)されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

リモコンの準備

乾電池の入れかた

- 1 裏ぶたをはずす
- 2 単3乾電池(2個)を入れる
- 3 裏ぶたを戻す



乾電池のご注意

乾電池は誤った使い方をすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

乾電池のプラス \oplus とマイナス \ominus の向きを表示どおりに正しく入れてください。

新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しないでください。

種類のちがう乾電池をまぜて使用しないでください。同じ形状でも電圧の異なるものがあります。

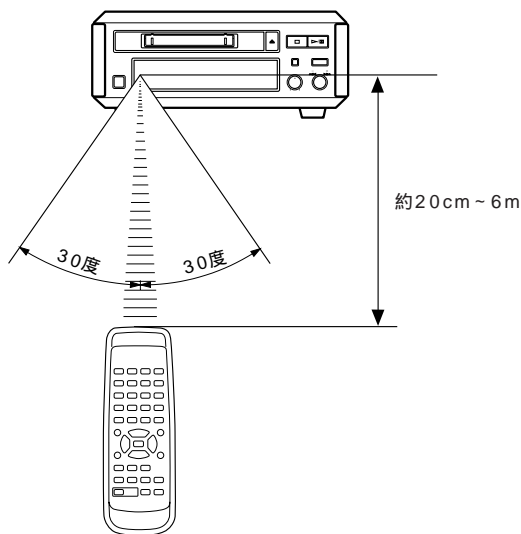
乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。

乾電池には充電式と充電式でないものがあります。

乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。

液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

リモコンの使用範囲



リモコン用乾電池の交換時期

リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約1年間です。

リモコン受信部に近寄らないと動作をしない場合は、乾電池を交換してください。

リモコン取扱上のご注意

受信部とリモコンの間に障害物があると操作できないことがあります。

リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、温度の高い所には置かないでください。受信部に直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっているとリモコンが動きにくくなります。

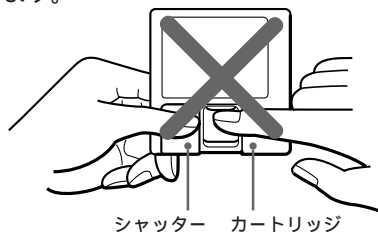
照明または製品本体の向きを変えてください。

他の機器のリモコンを同時に操作すると、動作をしないことがあります。

MDの取り扱いかた

MDはカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に取り扱えるようになってきました。ただし、カートリッジの汚れやそりなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。

内部のディスクに直接触れないでください
シャッターを無理に開けようとすると、こわれることがあります。



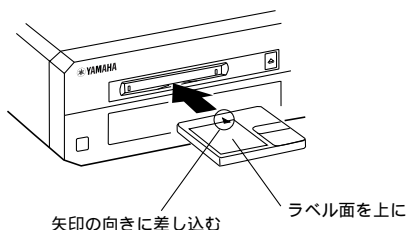
置き場所について

直射日光が当たるところなど温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。

定期的にお手入れを

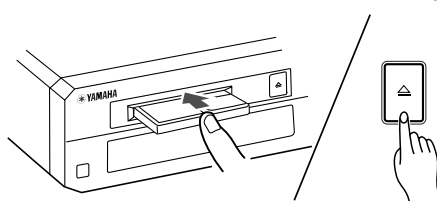
カートリッジ表面についたホコリやゴミを乾いた布でふき取ってください。

ディスクの挿入方法



挿入途中のディスクの取り出しかた

挿入途中でディスクを取り出す場合は、一度挿入してからEJECT△ボタンを押して取り出してください。



ロック機構が働くと、挿入途中では取り出せません。

MDの取り扱いかた

MDの使用上の注意

音量を調節するときは

MDはアナログカセットテープに比べ、非常に雑音が少ないです。アナログカセットテープのときのように音のない部分で雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大音量が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。演奏を始める前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がからないような音量でお聞かせください。特に夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

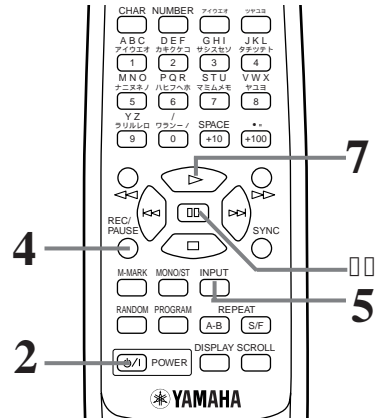
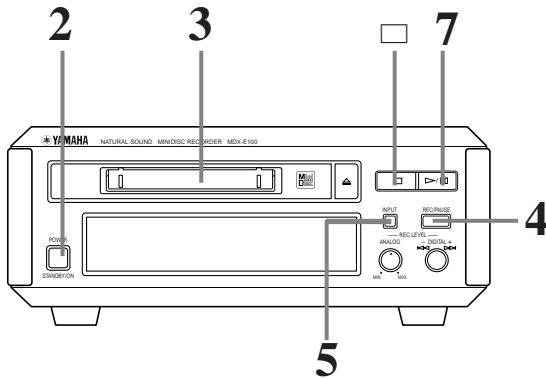
窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



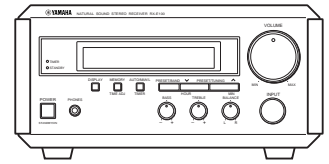
結露について

寒いときにお部屋の暖房を入れた直後など、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは、正常に働かないばかりでなく、MDや部品もいためてしまいます。本機をご使用にならないときは、MDを取り出しておくことをお勧めします。結露が生じたときは、電源を入れたまま、しばらくの間(約1時間)放置し、再度電源を入れ直してからご使用ください。もし何時間たっても正常に動作しない場合は、ヤマハホットラインサービスネットワークにご連絡ください。

MDに録音するには

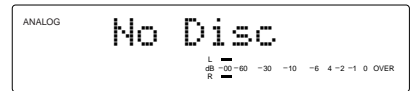


- 録音したい機器とアンプ(RX-E100など)のPOWERスイッチを押してそれぞれの電源を入れ、アンプのINPUTつまみで録音したい機器を選ぶ

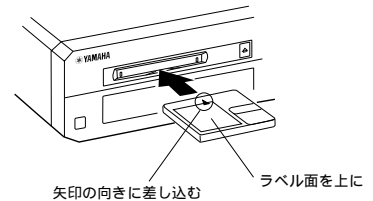


ヤマハRX-E100など

- 本機のPOWERスイッチを押して電源を入れる
表示窓に「No Disc」が表示されます。



- 録音用のMDを入れる
表示窓に「TOC Reading」が点滅表示されます。



矢印の向きに差し込む

ラベル面を上

- REC/PAUSE(録音 / 録音一時停止)ボタンを押す

RECとIIが点灯し、「REC Standby」が表示され、録音待機状態になります。(まだ録音は始まりません)

本体

リモコン

REC/PAUSE

REC/PAUSE

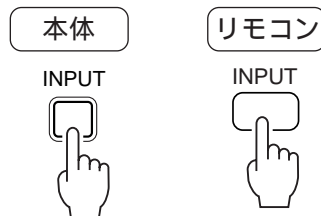


- INPUTボタンを押して録音したい機器をつないでいる入力端子を選択する

録音する機器をつないでいる端子によって入力する信号が異なります。

音源がつながっている端子	ディスプレイ表示
アナログ入力端子	ANALOG
デジタルオプティカル入力1端子	DIGITAL OPT 1
デジタルオプティカル入力2端子	DIGITAL OPT 2

ボタンを押すごとに、ANALOG、DIGITAL OPT 1、DIGITAL OPT 2 の順に切り換わります。



6 録音したい機器を再生する

コントロールコードで接続されたヤマハのCDプレーヤCDX-E100またはテープデッキKX-E100から録音する場合
CDまたはテープの再生が始まると自動的にMDの録音も始まります(シンクロ録音)。

7 ラジオ放送やお手持ちの機器から録音するときは、▷/⏏(再生/一時停止)ボタンまたはリモコンの▷ボタンを押す

操作目的	操作のしかた
録音を一時停止するとき*	本体の▷/⏏かREC/PAUSEボタンまたは、リモコンの⏏かREC/PAUSEボタンを押す。 もう一度本体の▷/⏏ボタンまたは、リモコンの▷ボタンを押すと、再び録音が始まる。
録音を止める**	□ボタンを押す。
MDを取り出す	△ボタンを押す。

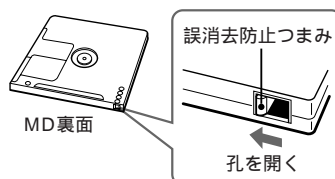
- * 録音を一時停止すると、曲番は変わります。
例えば、4曲目を録音中に一時停止したあと、再び録音を始めると、そこからは5曲目として録音されます。
- * コントロールコードで接続されたヤマハCDプレーヤCDX-E100またはカセットデッキKX-E100から録音しているときは、CDやカセットデッキの再生を止めるとMDは一時停止(録音待機状態)になります。再びCDやテープの再生を始めると自動的にMDのシンクロ録音が始まります。
- ** □ボタンを押すと、「Rec Stop!」が表示された後「TOC Writing」が点滅し、録音内容が自動的に書き込まれます。点滅が終わると録音が終了します。

ヒント

サンプリングレートコンバーター機能
本機はサンプリングレートコンバーターを内蔵しているため、32kHz、48kHzのデジタル信号は44.1kHzにレート変換されて録音されます。

ご注意

本機は、電源を入れたとき、MDを入れたとき、△ボタンまたは□ボタンを押したときに「TOC Reading」または「TOC Writing」の表示が点滅します。この状態のときは録音した内容(TOC)をMDに記録しているので、電源プラグをコンセントから抜いたり、本機をゆらしたりしないでください。正しく録音されないことがあります。
TOCとは「Table of Contents」の略で、曲名などのテキスト情報や、音の情報などを表します。録音内容を間違えて消さないために誤消去防止つまみをずらして、孔を開いた状態にします。この状態のときディスクを差し込むと「Protected」が表示されます。再び録音するときは、つまみを元に戻します。

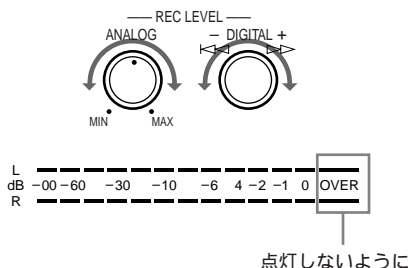


MDに録音するには

録音レベルを調節するには

INPUTボタンでANALOGを選んだときはREC LEVEL ANALOGつまみで、DIGITAL OPT 1または2を選んだときはREC LEVEL DIGITALつまみで録音レベルを調節します。

録音したいものの、一番大きい音の再生レベルの一番高い部分を演奏し、ピークレベルメーターのOVERのところまでふれないようにREC LEVELつまみを回して録音レベルを調節します。



ヒント

ヤマハCDプレーヤCDX-E100から録音する場合は再生を始めずに、CDプレーヤでCDのピークサーチを行いません。ディスクのなかでもっとも音量レベルが大きいところを自動的に探して再生するので録音レベルの調節に便利です。くわしくは、CDプレーヤの取扱説明書をご覧ください。

システム接続している機器から録音するときは右記の「録音する音をモニターするには」または「録音する前にあらかじめレベルを調節するには(アナログ録音のみ)」をご覧ください。

録音する音をモニターするには

ディスクを入れずにREC/PAUSEボタンを押すことで、再生音がモニターアウトされます。本機とシステム接続しているCDプレーヤCDX-E100やテープデッキKX-E100からアナログ録音するときは、モニターアウト機能を使ってあらかじめ録音レベルを調節しておく便利です。

- 1 INPUTボタンを押してモニターしたい機器を付けないでいる入力端子を選択する。
- 2 REC/PAUSEボタンを押す。
「Monitor Out」が表示されます。
- 3 モニターしたい機器を再生する。

モニターをやめるには

REC/PAUSEボタンをもう一度押す、または□ボタンを押す。

ご注意

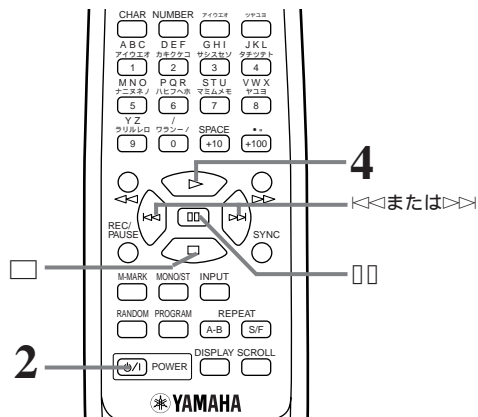
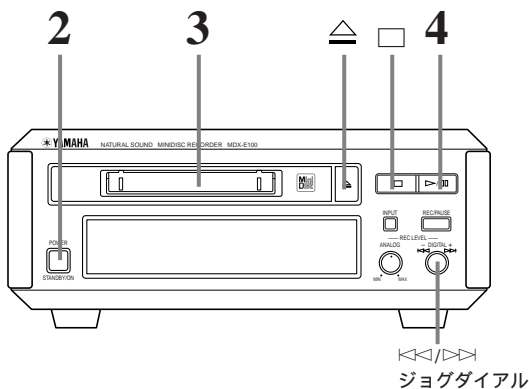
モニターアウト機能を使ってデジタル録音レベルを調節することはできませんが、調節後、ディスクを挿入すると設定が初期値に戻ってしまいます。実際の録音のために、モニターアウト機能を使って調節した値を覚えておく便利です。

録音する前にあらかじめレベルを調節するには(アナログ録音のみ)

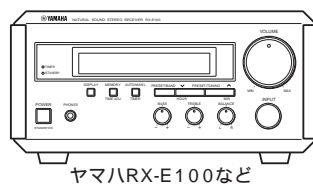
アナログ録音時のみ、あらかじめ録音レベルを調節してから録音することができます。

- 1 ディスクを挿入していない状態でREC/PAUSEボタンを押す。
「Monitor Out」が表示されます。
- 2 INPUTボタンを押してANALOGを選択する。
- 3 録音したい機器を再生する。
- 4 REC LEVEL ANALOGつまみでレベルを調節する。
- 5 録音レベルの調節が終わったら再生を止める。
モニターアウトは解除されます。CD、テープなどは録音したいところまで戻しておいてください。
- 6 録音用のMDを入れる。
- 7 REC/PAUSEボタンを押す。
「REC Standby」が表示されます。
- 8 録音したい機器を再生する。
- 9 ラジオ放送やお手持ちの機器から録音するときは、▷/⏏(再生/一時停止)ボタンまたはリモコンの▷ボタンを押す。

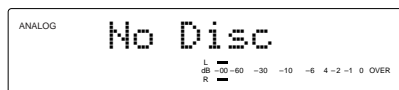
MDを再生するには



- 1 アンプ(RX-E100など)のPOWERスイッチを押して電源を入れ、INPUTつまみでMDを選ぶ

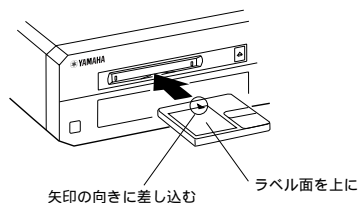


- 2 本機のPOWERスイッチを押して電源を入れる
表示窓に「No Disc」が表示されます。



- 3 再生したいMDを入れる

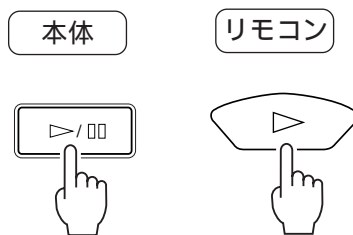
STANDBY(スタンバイ)モード*のときにディスクを入れると、自動的に電源が入ります。



- 4 ▷/⏏(再生/一時停止)またはリモコンの▷(再生)ボタンを押す
▷が点灯し、再生が始まります。
アンプで音量を調節します。

ヒント

リモコンの数字ボタンで曲番を押しても再生を始めることができます。



再生をストップするには
□ボタンを押す。

* 本体のPOWERスイッチが切られていて、電源コードがRX-E100に接続されている状態、または壁のコンセントに接続されている状態をスタンバイモードといいます。この状態でディスクを入れたり、MDのボタン(▷、△など)を操作すると、自動的に電源が入ります。

MDを再生するには

操作目的	操作のしかた
再生を一時停止する	本体の▷/◻または、リモコンの◻を押す。 もう一度本体の▷/◻または、リモコンの▷ボタンを押すと再生が始まる。
次の曲へ進む	ジョグダイヤルを右に回す。(リモコンでは、▷▷ボタンを押す。)
前の曲へ戻る	ジョグダイヤルを左に回す。(リモコンでは、◁◁ボタンを押す。)
MDを取り出す	△ボタンを押す。

ご注意

本機は、電源を入れたとき、MDを入れたとき、△ボタンまたは◻ボタンを押したときに「TOC Reading」または「TOC Writing」の表示が点滅します。本機の操作は、表示が消えてから行ってください。表示の点滅中は本機が正しく働かないことがあります。

いろいろな録音のしかた

録音するときのご注意

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

お問い合わせ先

(社)私的録音補償金管理協会 Tel. 03-3506-8407

「Protected」が表示されたときはMDが誤消去防止状態になっています。誤消去防止つまみをずらして、孔が閉じた状態にすれば録音できます(17ページ)。

「Disc Full」が表示されたときはディスクに録音する余裕がありません。

「Playback MD」が表示されたときは再生専用のディスクが入っています。

「DIGin Unlock」が表示されたときはINPUTボタンで「OPTICAL」を選択しているのに、録音したい機器がデジタル入力端子につながっていません。INPUTボタンで「ANALOG」を選択するか、録音したい機器をデジタル入力端子につなが直してください。録音したい機器の電源が入っていません。電源を入れてください。デジタル録音中にデジタル信号の入力が中断しました。録音を続けるときは、録音したい機器をもう一度再生します。

「Not Audio」が表示されたときは入力されたデジタル信号がオーディオのための信号ではありません。

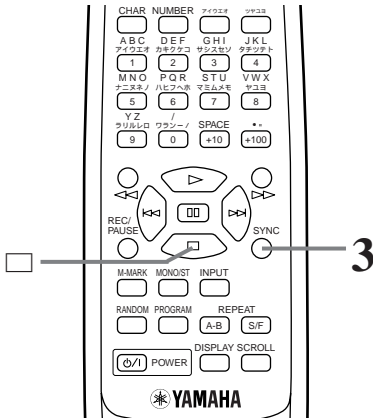
「TOC Writing」、「TOC Reading」が点滅表示されているときは本機は、電源を入れたとき、MDを入れたとき、△ボタン、□ボタンを押したときあるいは、録音や編集が終了したときに「TOC Reading」または「TOC Writing」の表示が点滅します。この状態のときは録音した内容(TOC)をMDに記録しているため、電源プラグをコンセントから抜いたり、本機をゆらしたりしないでください。正しく録音されないことがあります。TOCとは「Table of Contents」の略で、曲名などのテキスト情報や、音の情報などを表します。

本機は「シリアルコピーマネージメントシステム」に準拠しています。「Can't Copy」が表示されているときは、デジタル録音したMDをさらにデジタル録音することはできません。くわしくは45ページの「デジタル録音のルール」を参照ください。)

いろいろな録音のしかた

ミュージックシンクロ録音するには

ミュージックシンクロ録音機能により録音したい曲の演奏が始まると、自動的にMDの録音を開始します。



1 「MDに録音するには」(16～17ページ)の手順1～3と手順5を行なう

2 録音したい曲を準備しておく
CDプレーヤーなどの録音したい曲を選択しておきます。

3 リモコンのシンクロリモコンのSYNCボタンを押す



「Synchrony REC」が点滅表示して、ミュージックシンクロ録音の待機状態になります。

4 録音したい曲の演奏を始める
録音したい曲の演奏が始まると、自動的にMDのミュージックシンクロ録音が始まります。演奏が終わると「Synchrony REC」を点滅表示して、自動的にミュージックシンクロ録音の待機状態に戻ります。

ミュージックシンクロ録音を停止するには
□(停止)ボタンを押す。

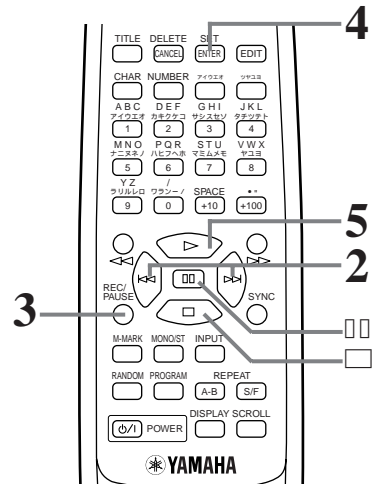
「REC Stop!」が表示され録音が停止します。

上書き録音するには

録音済みの曲に上書きすることができます。曲の頭から上書きすることも、途中から上書きすることもできます。

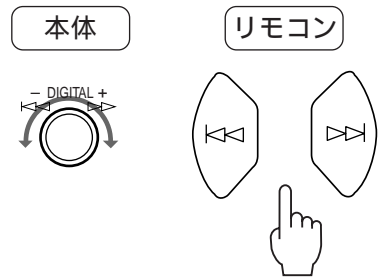
ご注意

上書き録音した曲以降のデータはすべて消去されます。たとえば6曲録音されているディスクの4曲目を上書き録音すると、5曲目と6曲目のデータは消去されます。



1 「MDに録音するには」(16～17ページ)の手順1～3と手順5を行なう

2 ジョグダイヤルを回して(リモコンは<<>/>>>ボタンを押す)上書き録音する曲を選ぶ



3 レック/ポーズ REC/PAUSEボタンを押す



REC/PAUSEボタンを押すと「OverWriteOK?」が点滅表示します。

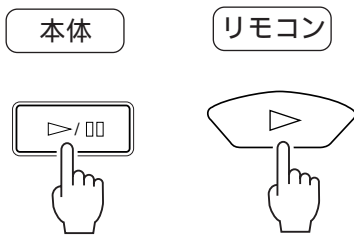
4 セット/エンター SET/ENTERボタンを押す



SET/ENTERボタンを押すと「REC Standby」が表示され、上書き録音の待機状態になります。この時点で元の曲は削除されます。曲の途中から上書き録音する場合は、それ以前の部分は残っています。

上書き録音を中止するときは□ボタンを押します。アンドゥー機能を使うと削除された曲を復元することができます。

5 ▷/⏏(再生/一時停止)またはリモコンの▶(再生)ボタンを押す



上書き録音がスタートします。

上書き録音を停止するには□ボタンを押す。「REC Stop!」が表示され録音が停止します。

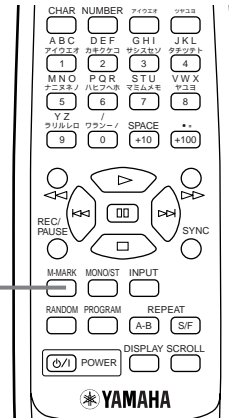
ご注意

上書き録音するとシステム上の制約により時間が正確に表示されなかったり、うまく編集できなかったりすることがあります。(46ページ)

録音中に曲番を付けるには

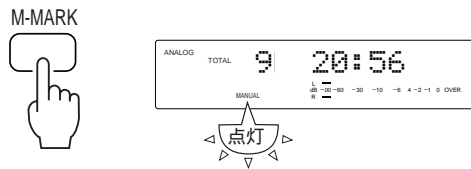
録音した曲に曲番を付けることをトラックマーキングと呼びます。本機はトラックマーキングを自動的にやりますが(オートトラックマーキング)、録音中に自分で曲番を付けることもできます(マニュアルトラックマーキング)。

曲の途中に曲番を付けておけば、録音後に編集がしやすくなります。



1, 2

1 マニュアルマーク M-MARK ボタンを押して MANUALインジケータを点灯させる



2 録音中、好きなところで M-MARKボタンを押す



新しい曲番が表示され、その位置に新しい曲番が付きます。

いろいろな録音のしかた

曲番を付け間違えたときは

曲の途中でREC/PAUSEボタンを誤って押してしまったり、曲番を付け忘れた場合は、もう一度録音し直すか、録音後に「曲を分けるには(ディバイド機能)」(37ページ)や「曲をつなぐには(コンバイン機能)」(39ページ)を使って、編集することもできます。

オートトラックマーキング

本機は通常の状態、トラックマーキングを自動的にを行います。(MANUALインジケータが消灯している状態)これをオートトラックマーキングと呼びます。

ご注意

デジタル録音かアナログ録音によって曲番の付きかたが異なります

<オートトラックマーキング(MANUAL消灯)モードのとき>

デジタル録音のとき

曲番は、自動的に録音していたものと同じように付きます。ただし、同じ曲を繰り返し録音するときは、繰り返した部分に対して、曲番は1つしか付かないことがあります。また、MDから録音するとき、4秒以下の曲には曲番が付かないことがあります。

アナログ録音のとき

無音部分が約1.5秒以上続いたときに曲番が付きます。約1.5秒以下のときは曲番はつきません。

<マニュアルトラックマーキング(MANUAL点灯)モードのとき>

デジタル録音のとき

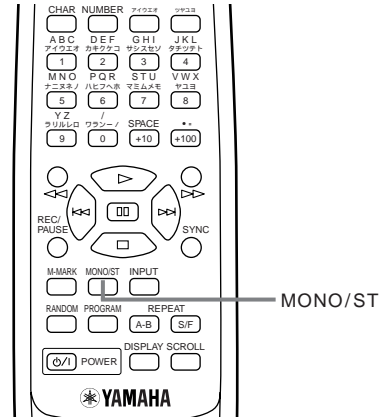
曲番は、自動的に録音していたものと同じように付きます。さらに曲番をつけたいときは、好きところでM-MARKボタンを押して曲番をつけることができます。

アナログ録音のとき

録音した部分全体で1曲として扱うため、何も操作しなければ曲番は1つしか付きません。ただしマニュアル(手動)操作することにより、録音中または録音後に好きなのところに曲番を付けることができます。

モノラル録音をするには

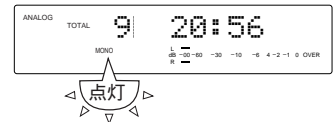
録音する内容が会話や会議など音質を問わないもの場合は、モノラル録音することができます。モノラル録音はディスクの録音時間が倍になります。



モノ/ステレオ

MONO/STボタンを押して、MONOインジケータを点灯させる

MONO/ST



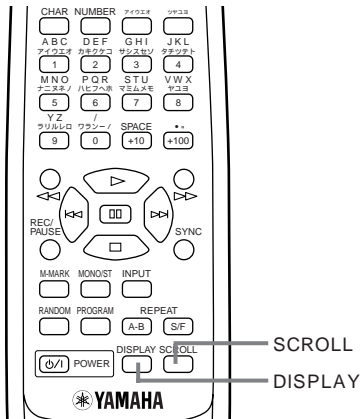
残りの録音可能時間が2倍になって表示され、モノラル録音可能になります。

録音方法については、「MDに録音するには」(16~17ページ)をご覧ください。

いろいろな再生のしかた

表示窓の使いかた

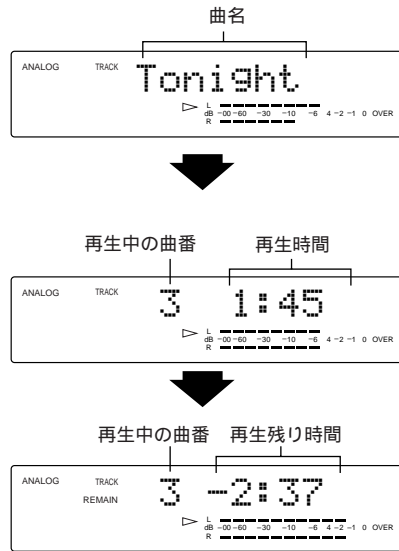
表示窓を使って、MDの全曲数や全再生時間、MDの残り時間、ディスク名などを調べることができます。



「TRACK」表示中
(再生中に表示されます)

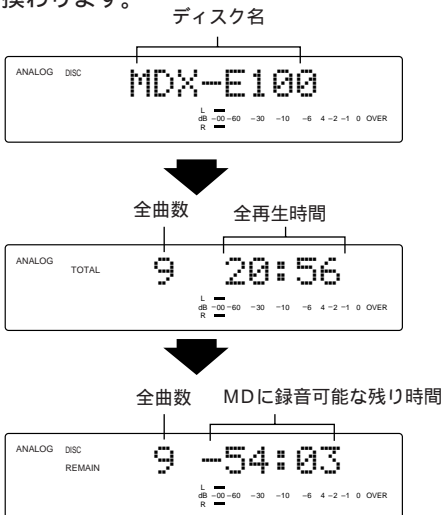
再生中の曲名、曲番と再生時間、曲の残り時間を調べることができます。

再生中にDISPLAYボタンを押すと次のように切り換わります。



「TOTAL」または「DISC」表示中
(MDを入れたとき、またはディスクに収録されているすべての曲を再生し終わったときに表示されます)
ディスク名、全曲数と全再生時間、MDの残り時間を調べることができます。

停止中にDISPLAYボタンを押すと次のように切り換わります。



再生専用のMDでは表示されません。

ヒント

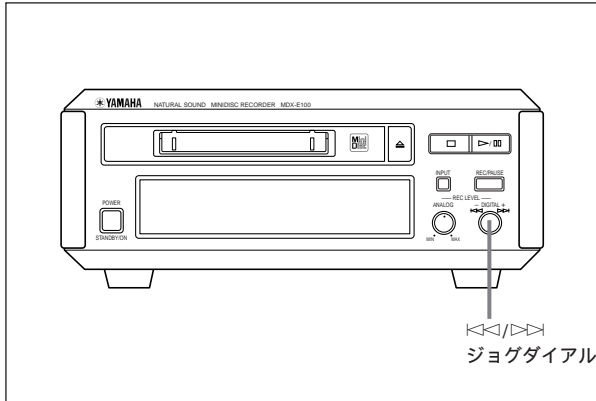
再生中、曲名を見ることができます
再生中にリモコンのSCROLLボタンを押すと、いつでも曲名を見ることができます。曲名のスクロール中にSCROLLボタンを押すと、スクロールが停止します。もう一度SCROLLボタンを押すと、再びスクロールが始まります。スクロール後は元の表示に戻ります。

いろいろな再生のしかた

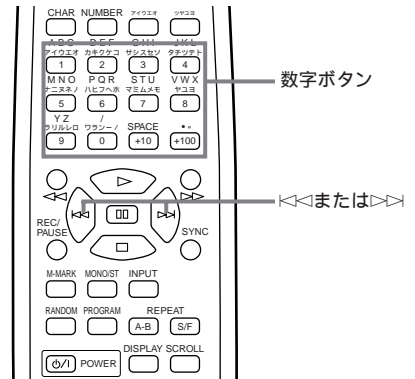
また、MDを入れたときにも、全曲数や全再生時間、ディスク名が表示されます。

いろいろな再生のしかた

とびこして聞くには

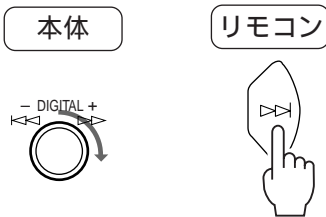


曲番を指定して聞くには



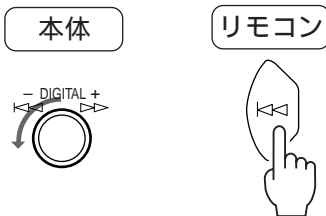
次の曲の頭から聞く

再生中に、ジョグダイヤルを右に回す(リモコンの▶▶ボタンを押す)



再生中の曲または前の曲を頭出しする

再生中に、ジョグダイヤルを左に回す(リモコンの◀◀ボタンを押す)



曲の頭で一時的に停止する
一時停止中、ジョグダイヤルを回す。
(リモコンでは、一時停止中に◀◀または▶▶ボタンを押す。)

MDの最後の曲から選ぶ
停止中にジョグダイヤルを左へ回す。
(リモコンでは◀◀ボタンを押す。)

聞きたい曲番を数字ボタンで指定する

ABC アイウエオ	DEF カキクケコ	GHI サシスセソ	JKL タチツテト
1	2	3	4
MNO ナニヌネノ	PQR ハヒフヘホ	STU マミムメモ	VWX ヤユヨ
5	6	7	8
YZ ラリルレロ	/ ワランーノ	SPACE	..
9	0	+10	+100



選んだ曲の頭から演奏を始めます。

- 1 ~ 9、0 ボタン: 1の位を指定
- +10 ボタン: 10の位を指定
- +100 ボタン: 100の位を指定

12曲目を選ぶときは
+10 → 2 と押します。

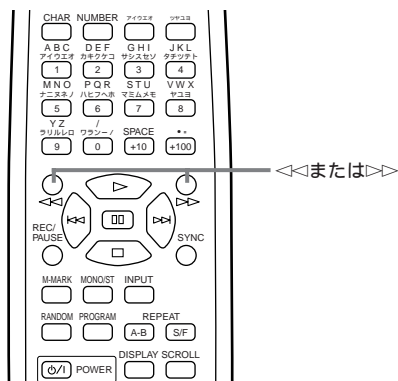
22曲目を選ぶときは
+10 → +10 → 2 と押します。

123曲目を選ぶときは
+100 → +10 → +10 → 3 と押します。

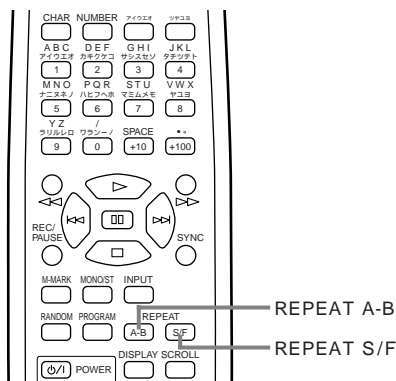
* 2つ以上のボタンを押すときは、4秒以内に押します。

MDに入っている曲数より大きい曲番を指定しても受けつけません。

曲の中の聞きたい部分を探すには

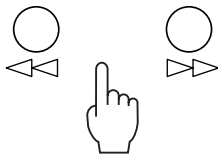


繰り返し聞くには(リピート再生)



再生中に探す

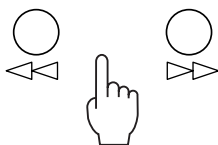
再生中に、サーチボタンを押し続け、聞きたい所で、サーチボタンから指を離す



ボタンを押しているあいだは音量が小さくなり、指を離すとその位置から演奏が始まり、元の音量に戻ります。

一時停止中に探す(高速サーチ)

一時停止中に、サーチボタンを押し続け、聞きたい所で、サーチボタンから指を離す(音は聞こえません)



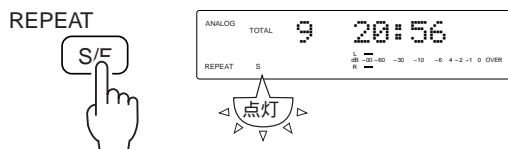
▷ ボタンを押すと再生が始まります。

ご注意

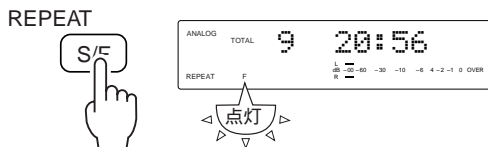
サーチして最後の曲の終わりまで進んでしまうと、再生(サーチ)はストップします。数秒の曲が連続している場合、正常にサーチできないことがあります。

1曲だけ、または全曲を繰り返し聞けます。ランダム再生、プログラム再生中にも設定できます。

1曲だけを繰り返す(REPEAT S)
REPEAT S/Fボタンを押して「REPEAT S」を表示させると、現在再生中の1曲だけを繰り返し聞けます。(停止中にも設定することができます。)



全曲を繰り返す(REPEAT F)
REPEAT S/Fボタンを押して「REPEAT F」を表示させると、現在再生中のディスクを曲番順に繰り返し聞けます。(停止中にも設定することができます。)



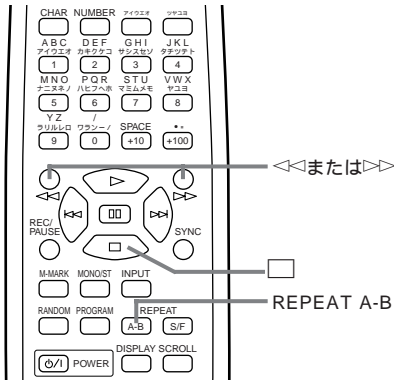
REPEAT Fボタンを押したとき、再生状態に応じて次のように繰り返し聞けます。

再生状態	繰り返される内容
ふつうの再生(19ページ)	全曲を曲番順に
ランダム再生(28ページ)	全曲を繰り返すたびに曲順を変えて
プログラム再生(29ページ)	プログラムした曲順に

リピート再生をやめるときは REPEATボタンを押して「REPEAT S」または「REPEAT F」の表示を消す。

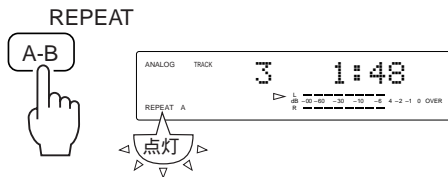
いろいろな再生のしかた

聞きたい部分を繰り返し聞くには (A-Bリピート)



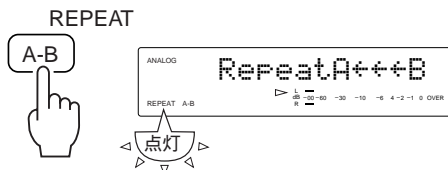
聞きたい部分を指定して、繰り返し聞けます。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。2曲以上にまたがった部分は、繰り返し聞けません。

1 再生中に、繰り返す部分の始点 (A点)でREPEAT A-Bボタンを押す



始点 (A点) が設定され「REPEAT A」が点灯します。

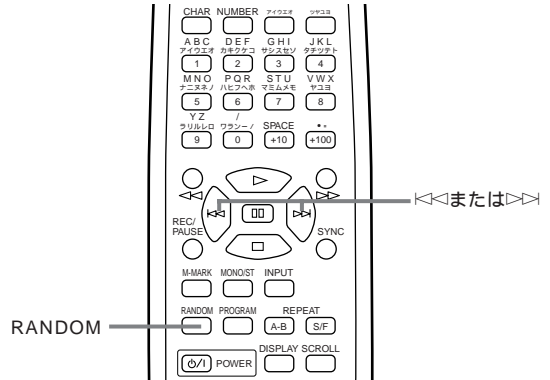
2 再生を続けるかサーチボタンで繰り返す部分の終点 (B点)まで行き、もう1回REPEAT A-Bボタンを押す



終点 (B点) が設定され「REPEAT A-B」が点灯し、設定した部分を繰り返します。

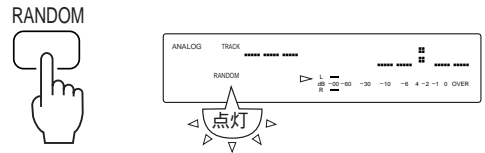
A-Bリピート再生をやめるには REPEAT A-Bまたは□ボタンを押して「REPEAT A-B」の表示を消す。

順不同に聞くには (ランダム再生)



全曲を曲番に関係なく、本機がランダム(無作為)に選んで、ひと通り再生します。

ランダム 停止中にRANDOMボタンを押す



ランダム再生が始まります。

ランダム再生をやめるには RANDOMまたは□ボタンを押して「RANDOM」の表示を消す。

ヒント

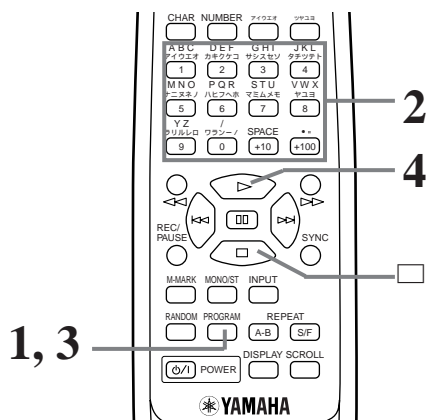
ランダム再生中に頭出しができます。◀◀または▶▶ボタンを押します。(本体ではジョグダイヤルを回します。)

▶▶を押す(ジョグダイヤルを右に回す)と、次の曲をランダムして再生します。

◀◀を押す(ジョグダイヤルを左に回す)と、再生中の曲の頭に戻って再生します。すでに再生し終わった曲には戻りません。

聞きたい曲を好きな順に聞くには (プログラム再生)

30曲までプログラムできます。



1 停止中にプログラムボタンを押す

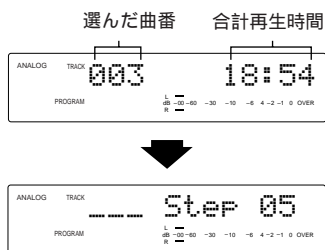


「PROGRAM」が表示されます。



2 数字ボタンを押して曲番を選ぶ

聞きたい順に曲番を数字ボタンで押していくと、選んだ曲がプログラムされます。プログラムした曲番と合計再生時間が表示されます。最大30曲までプログラムできます。

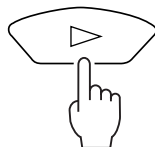


10曲目以降を選ぶときは、+10ボタンを使います。数字ボタンの使いかたは「曲番を指定して聞くには」(26ページ)をご覧ください。

3 プログラム PROGRAMボタンを押す



4 ▷ボタンを押す



プログラムした順に再生が始まります。

プログラム再生をやめるには停止中□ボタンを押して「PROGRAM」の表示を消す。作成したプログラムは消去されます。また、△ボタンを押してディスクを取り出してもプログラムは消去されず。

ヒント

同じ曲を繰り返しプログラムするには繰り返したい回数だけ数字ボタンを押します。プログラムすべての再生が終わっても、「PROGRAM」が表示されているあいだは作ったプログラムは残っています。▷ボタンを押すと、同じプログラムをもう一度聞けます。

ご注意

プログラムの合計時間が100分を超えると、「Over」が表示されます。30曲までプログラムした後に、また曲をプログラムすると、30曲目だけが変更され他の曲番の曲は変更されません。

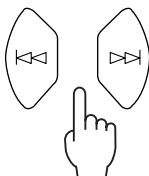
いろいろな再生のしかた

プログラムの内容を確認するには

- 1 停止中にPROGRAMボタンを押す。



- 2 << または >> ボタンを押して内容を確認する。<< または >> ボタンを押す度にプログラムした順に、曲番が表示されます。



- 3 確認が終わったらもう一度PROGRAMボタンを押す。



プログラムの内容を変更するには

停止中であればプログラムの内容を変更できます。

曲を変更するには

- 1 停止中にPROGRAMボタンを押す。
- 2 << または >> ボタンを押して変更したいプログラム内容を表示させる。
- 3 変更する曲番の数字ボタンを押す。

曲を追加するには

- 1 停止中にPROGRAMボタンを押す。
- 2 >> ボタンを押して最後のプログラム内容を表示させる。
- 3 追加したい曲番の数字ボタンを押す。

すべてを変更するには

停止中、□ボタンを押して「PROGRAM」表示を消した後、もう一度PROGRAMボタンを押してプログラムしなおす。

MDを編集するには

編集メニューについて

編集機能では、録音したディスクの好きなところで頭出しができるように曲を途中から分けたり、2つの曲をつなぐなど、録音後に手直ししたり、曲番を指定するだけで曲をまるごと消すことができます。ディスクや曲に名前を付けたりすることもできます。（「曲名やディスク名を付けるには」P.42ページ）

編集メニューには以下の7種類があります。

- 曲やタイトルを消す: Erase(イレース)
- 曲を移動する: Move(ムーブ)
- 曲を分ける: Divide(ディバイド)
- 曲をつなぐ: Combine(コンバイン)
- 記録できる部分の復活: FRA (Freely Recordable Area) Check(フラチェック)
- TOCの書き込み: TOC Write(トックライト)
- 編集の取り消し: Undo(アンドゥー)

ご注意

プログラムモード(「PROGRAM」が点灯)になっているときは編集機能は働きません。

「Protect」が表示されたときはディスクが誤消去防止状態になっていて、編集を行うことができません。ディスクの誤消去防止つまみをずらして孔が閉じた状態にしてから、曲を消してください。

編集を行った後は、表示窓に**TOC**が点灯します。

TOCが点灯しているときは電源コードをコンセントから抜いたりしないでください。電源コードを抜くと、編集した内容がキャンセルされてしまいます。

△ボタンを押したり、POWERスイッチを押すと「TOC Writing」が表示され、編集した内容をディスクに記録した後、ディスクが出てきます、または電源が切れます。「TOC Writing」表示中は、本機をゆらしたり、電源コードをコンセントから抜いたりしないでください。編集した内容が正確に書き込まれないことがあります。

EDITボタンを押すたびに、編集メニューが下記のように切り替わり表示窓に表示されます。



[DISC] または [TOTAL] 表示中(停止状態)

Disc Erase ?	ディスクイレース
Undo	アンドゥー (編集後のみ)
Title Erase ?	ディスクタイトルイレース
TOC Write ?	トックライト (編集後のみ)
FRA Check ?	フラチェック

[TRACK] 表示中(停止状態)

Move	ムーブ
Erase	イレース
Combine	コンバイン (2曲目以降を選択中のみ)
Undo	アンドゥー (編集後のみ)
Title Erase	トラックタイトルイレース
TOC Write	トックライト (編集後のみ)
FRA Check	フラチェック

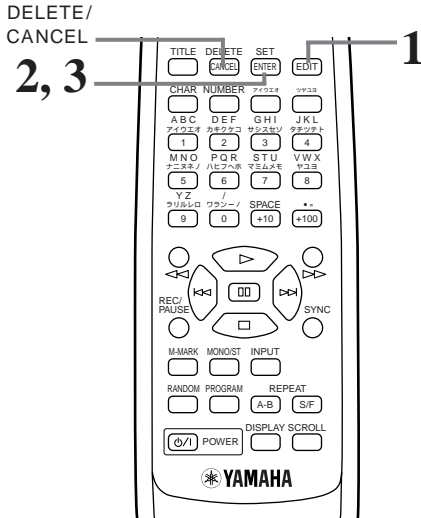
[TRACK] 表示中(再生中、一時停止中)

Move ?	ムーブ
Erase ?	イレース
A-B Erase ?	A-Bイレース (Repeat Sが表示されていないとき)
Divide ?	ディバイド
Combine ?	コンバイン (2曲目以降を選択時のみ)
Title Erase ?	トラックタイトルイレース

MDを編集するには

編集を取り消すには (Undo機能)

直前に実行した編集操作を取り消し、復元することができます。



3 もう一度^{セット/エンター}SET/ENTERボタンを押す



アンドゥー機能が実行されます。
「Complete」が表示されアンドゥーが完了します。

ご注意

TOCを書き込んでしまった後は、Undo機能は働きません。

1 停止中に、「Undo...」が表示されるまで、^{エディット}EDITボタンを押す



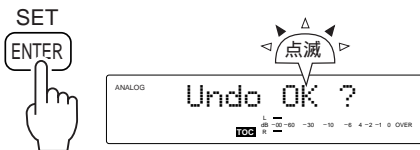
編集操作を何も行っていない場合は表示されません。

「...」の部分には、取り消すことができる操作が表示されます。



(イレース後のアンドゥー画面)

2 ^{セット/エンター}SET/ENTERボタンを押す

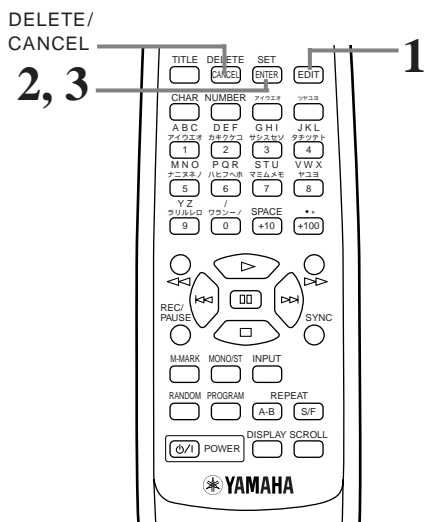


「Undo OK ?」が表示されます。

アンドゥーを中止するときはDELETE/CANCELボタン、または□ボタンを押します。

1枚のMDのすべての曲を消すには (Disc Erase機能)

1度に、MDの全曲と全曲名、ディスク名(MDに記録しているすべての内容)を消します。

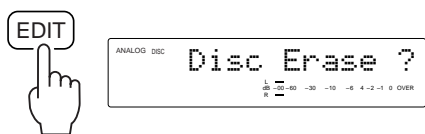


3 もう一度^{セット/エンター}SET/ENTERボタンを押す



ディスクイレース機能が実行されます。
「Complete」が数秒間表示されて消えると、MDの全曲と全曲名、ディスク名が消えます。

1 「DISC」が表示されているとき、停止中に、「Disc Erase ?」が表示されるまで、^{エディット}EDITボタンを押す



2 ^{セット/エンター}SET/ENTERボタンを押す



「DiscEraseOK?」が表示されます。

ディスクイレースを中止するときはDELETE/CANCELボタン、または□ボタンを押します。

MDを編集するには

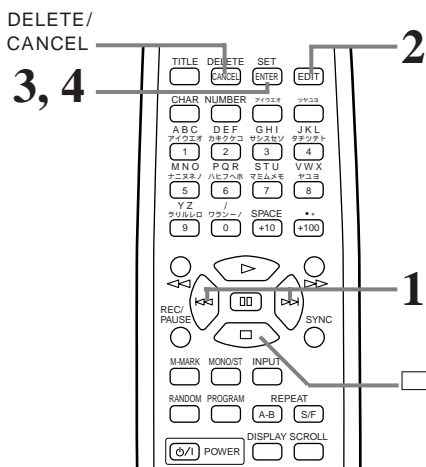
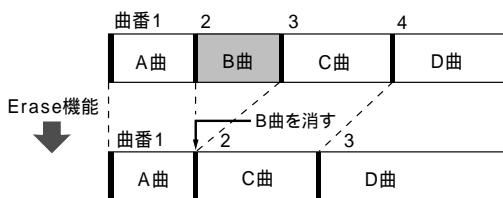
1 曲を消すには (Erase機能)

曲番を指定するだけで、1曲をまるごと消すことができます。消した曲番には次の曲が順に繰り上がり、自動的に改めて連続した曲番が付きます。

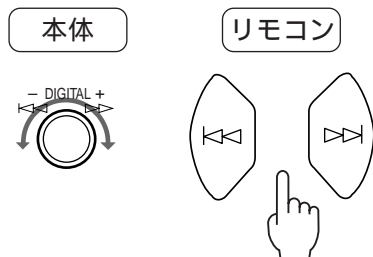
例えば、曲番1を消すと、元の曲番2が1に繰り上がります。

(2曲以上消すときは、途中の曲番が変わらないように、後ろの曲から消すことをおすすめします。) カセットテープのように録音済みの曲を消しながら録音する必要はありません。

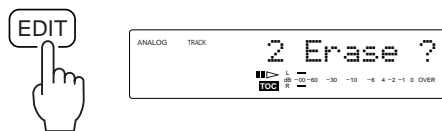
例) 2曲目のB曲を消すとき



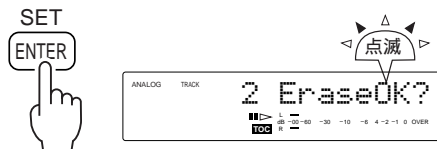
1 ジョグダイヤルまたはリモコンの◀◀ / ▶▶ ボタンを押して消したい曲を選ぶ



2 消したい曲番と「Erase ?」が表示されるまでEDITボタンを押す



3 セット/エンター SET/ENTERボタンを押す



「2 Erase OK?」が表示されます。

中止するときはDELETE/CANCELボタンまたは□ボタンを押します。

4 消したい曲番を確認してもう1度SET/ENTERボタンを押す



イレース機能が実行されます。「Complete」が表示され指定した曲が消されます。本機は自動的に停止します。

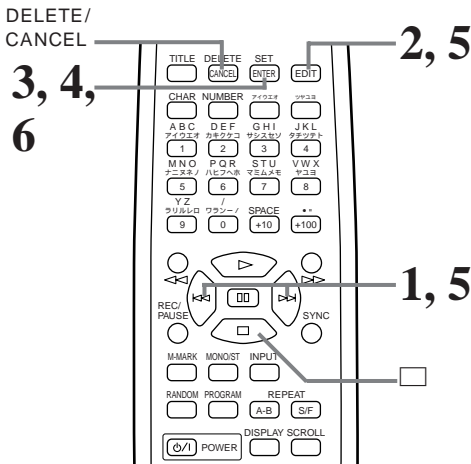
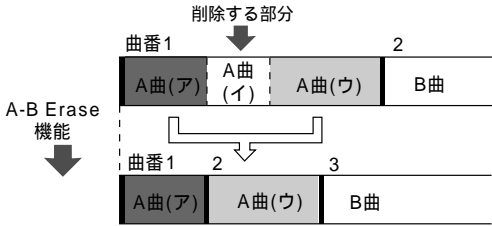
ご注意

「Can't edit」が表示されると、曲を消すことができません。

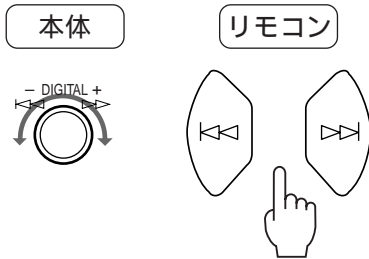
何度も編集を繰り返すと、消すことができない曲ができる場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

曲の一部分を消す (A-B Erase機能)

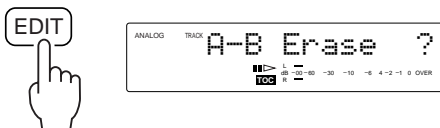
特定の曲の一部分を消します。消す部分は「始点(A)」と「終点(B)」で指定します。



1 再生中または再生一時停止中に、ジョグダイヤルもしくはリモコン<<</>>>ボタンを押して消したい曲を選ぶ



2 再生中に、「A-B Erase ?」が表示されるまで、EDITボタンを押す



3 消したい部分の頭で、SET/ENTERボタンを押して始点(A)を設定する



「Erase A-」が表示されます。

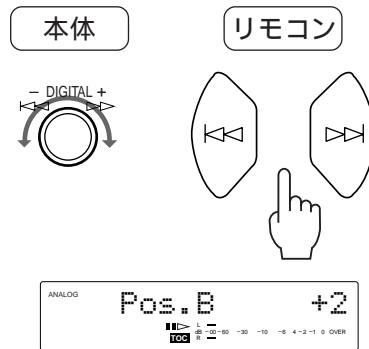
4 消したい部分の最後で、SET/ENTERボタンを押して終点(B)を設定する



「Check」を表示した後、A-Bイレース後の状態を、繰り返しリハーサル演奏します。

5 必要に応じて開始点(A)と終点(B)を微調整する

ジョグダイヤルもしくはリモコン<<</>>>ボタンを押すと開始点(A)と終点(B)が-176から+176(±2秒)の範囲で移動できます。



EDITボタンを押すたびに調節できるところを始点(A)か終点(B)に切り替えます。

A-Bイレースを中止するときはDELETE/CANCELボタン、または□ボタンを押します。

次のページへつづく

MDを編集するには

6 もう一度SET/ENTERボタンを押す



A-Bイレース機能が実行されます。
「Complete」が数秒間表示されて消えると、設定した範囲が消えます。
自動的に本機は再生一時停止します。
元の曲にタイトルがついているときは、後半の曲番に同じタイトルが付きまます。

曲の頭の部分を消すときは
ディバイド機能 (37ページ)で曲を分け、イレース機能 (34ページ)で削除することもできます。

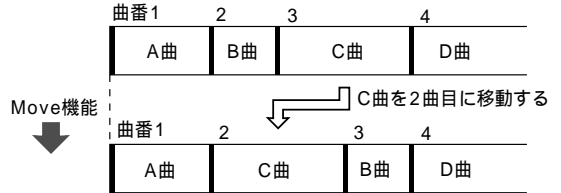
ご注意

「Can't edit」が表示されると、曲を消すことができません。
何度も編集を繰り返すと、消すことができない曲ができる場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

曲を移動するには (Move機能)

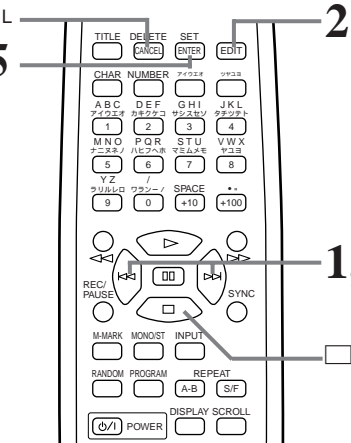
ある曲を好きな位置に移動して、曲順を変えることができます。移動後の曲番は、自動的に改めて連続した番号が付きまます。

例) C曲(3曲目)を2曲目に移動するとき



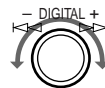
DELETE/
CANCEL

3, 5

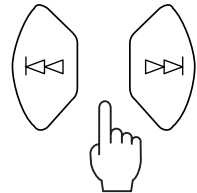


1 ジョグダイヤルまたはリモコンの<<</>>>ボタンを押して移動したい曲を選ぶ

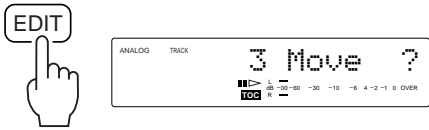
本体



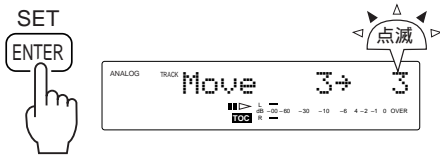
リモコン



2 「Move ?」が表示されるまで エディット EDITボタンを押す

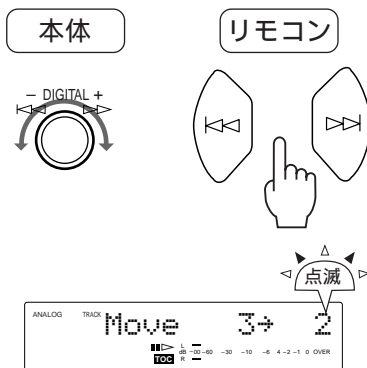


3 セット/エンター SET/ENTERボタンを押す



移動したい曲番が表示され、移動先の曲番が点滅します。

4 ジョグダイヤルまたはリモコンの ◀◀ / ▶▶ ボタンを押して移動先の曲番を指定する



中止するときはDELETE/CANCELボタンまたは□ボタンを押します。

5 セット/エンター 移動先の曲番を確認してSET/ ENTERボタンを押す

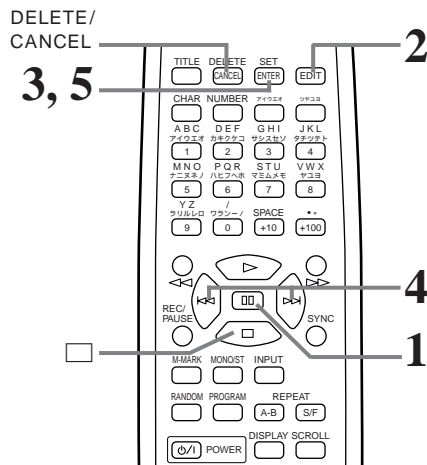
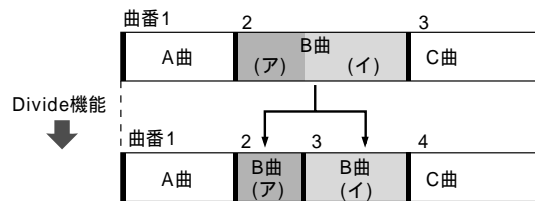


ムーブ機能が実行されます。「Complete」が数秒間表示されて消えると、設定した曲が移動します。再生もしくは一時停止の状態から編集したときは、一時停止に、停止状態から編集したときは、停止状態に自動的になります。

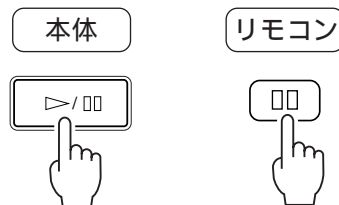
曲を分けるには (Divide機能)

録音後に1曲を2つの曲に分け、新たに頭出しのための曲番を記録します。マニュアルトラックマーキング (23ページ) で録音したMDなどで1つの曲番に複数の曲が録音されている場合や、曲の途中で頭出し点をつくるときに使います。分けた曲以降の曲番は順に1番ずつ加算され、自動的に改めて連続した番号が付きます。

例) B曲を2曲目と3曲目に分けるときの



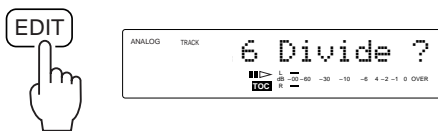
1 再生中に、曲を分けるところで ▶/□ ボタンもしくはリモコンの □ ボタンを押して、再生を一時停止する



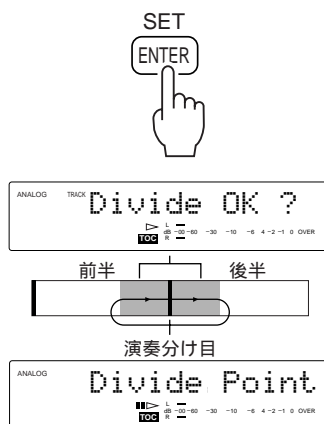
次のページへつづく

MDを編集するには

2 「Divide ?」が表示されるまで EDITボタンを押す

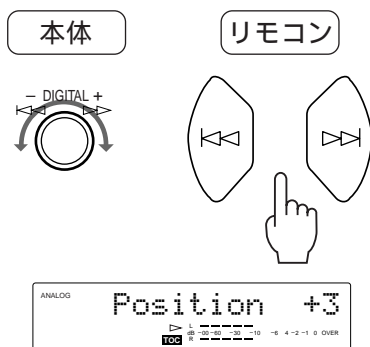


3 セット/エンター SET/ENTERボタンを押す



「Check」を表示した後、「Divide OK?」と「Divide Point」が交互に表示され、分け目の前後が繰り返しリハーサル演奏されます。

4 分け目を調節したいときはジョグダイヤルまたはリモコンの ◀◀/▶▶ボタンを押す



繰り返し再生される音を聞きながら、ジョグダイヤルまたはリモコンの◀◀/▶▶ボタンで少しずつ分け目を調節します。その曲(1曲)の中だけ最大 - 255 から + 255 まで移動できます(±約2秒)。

ディバイドを中止するときはDELETE/CANCELボタン、または□ボタンを押します。

5 セット/エンター 分け目を確認してSET/ENTER ボタンを押す



ディバイド機能が実行されます。「Complete」が数秒間表示されて消えると、曲が分かります。本機は分けた曲の頭(後半)で、再生一時停止します。元の曲に曲名が付いているときは、後半の曲にも同じ曲名が付きます。

ヒント

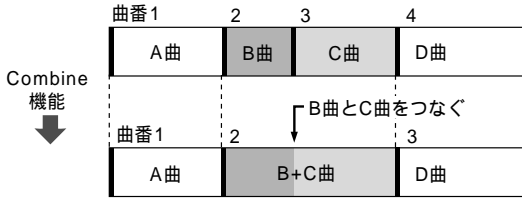
録音中に曲を分けられます。マニュアルトラックマーキング機能を使って曲を分けます(23ページ)。

曲をつなぐには (Combine機能)

連続した2つの曲をつないで1曲にまとめます。いくつかの曲を続けて聞けるようにしたり、何度も停止してコマ切れで録音したものを1つにまとめたりするときなどにお使いください。

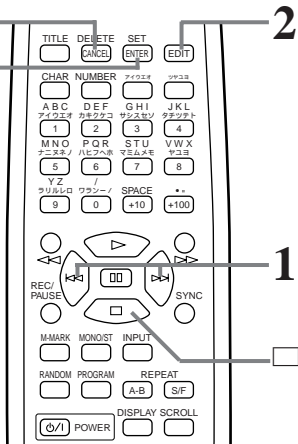
つなげたい曲が連続していない場合は、ムーブ機能 (36 ページ) で曲を移動してください。

例) B曲とC曲をつなぐとき

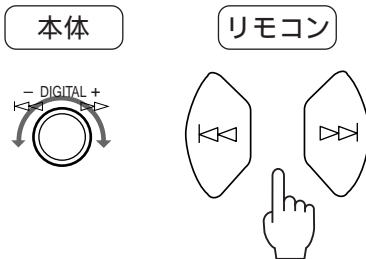


DELETE/
CANCEL

3, 4

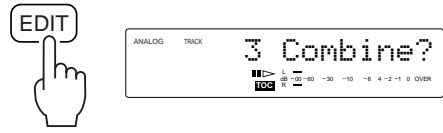


1 ジョグダイヤルまたはリモコンの◀◀ / ▶▶ ボタンを押して、つなぎたい2曲の後の曲番を表示させる

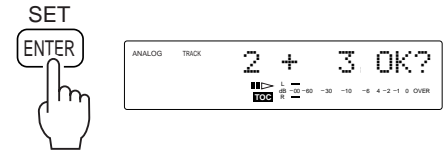


表示した曲を1つ前の曲とつなぎます。例えば、2曲目と3曲目をつなぐときは、3曲目を表示させます。

2 「Combine ?」^{エディット}が表示されるまで、EDITボタンを押す



3 セット/エンター
SET/ENTERボタンを押す



「Check」が表示された後、「2 + 3 OK?」が表示されて、つなぎ目(1曲にする前の曲の終わり)と後ろの曲の初め)の部分の繰り返し、リハーサル演奏します。

コンバインを中止するときはDELETE/CANCELボタン、または□ボタンを押します。

4 つなぎ目を確認したらもう一度
セット/エンター
SET/ENTERボタンを押す



コンバイン機能が実行されます。「Complete」が数秒間表示されて消えると、曲がつながります。本機はつないだ曲の頭で、再生一時停止します。つないだ2曲の両方に曲名がついているときは、後の曲名は消えます。

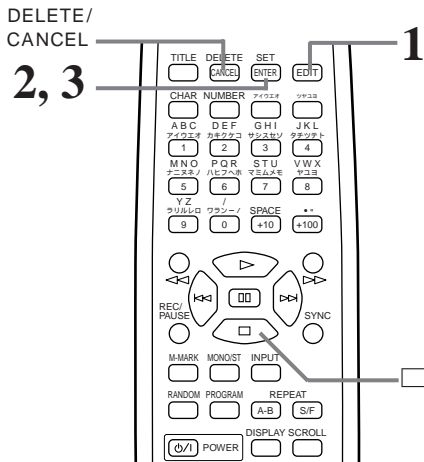
ご注意

「Can't edit」が表示されると、その2曲は1曲につなぐことができません。何度も編集を繰り返すと、つなぐことができない曲ができる場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

MDを編集するには

TOCを書き込むには (TOC Write機能)

MDに録音するときは、自動的にTOC(Table Of Contents)も書き込まれますが、MDを編集したり、ディスクや曲にタイトルを付けても、△ボタンを押してMDを取り出すか、POWERスイッチで電源を切るまではTOCは自動的に書き込まれません。編集やタイトル付けを行った後にTOCを書き込んでおけばMDを入れたまま本機の電源コードがコンセントから抜けてしまった等の場合でも、TOCが正しく書き込まれていないということがなく安心です。



3 もう一度SET/ENTERボタンを押す



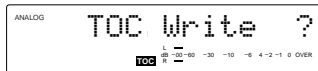
「TOC Writing」が数秒間点滅し、TOCを書き込みます。

ご注意

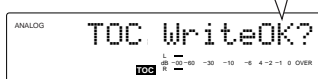
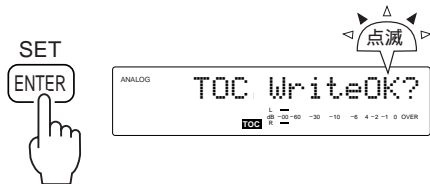
表示窓に**TOC**が点灯しているときだけ、TOCを書き込むことができます。

MDを編集するには

1 停止中に「TOC Write?」が表示されるまでEDITボタンを押す



2 セット/エンター SET/ENTERボタンを押す

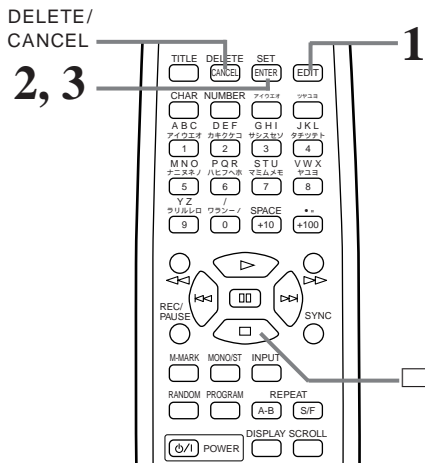


「TOC WriteOK?」が表示されます。

TOCの書き込みを中止するときはDELETE/CANCELボタンまたは□ボタンを押します。

FRAチェックするには (FRA Check機能)

ムーブ機能やディバイド機能などの編集を行なったとき、ディスクに録音できる空きがなくなり、表示窓に「Disc Full」が表示されることがあります。このようなときは、FRA Check機能を行なうことにより、ディスクの中に録音できる部分を復活させることができます。



3 もう一度^{セット/エンター}SET/ENTERボタンを押す



FRA Check機能が実行されます。
「Complete」が表示され、FRA Checkが完了します。

1 停止中に「FRA Check?」^{エディット}が表示されるまでEDITボタンを押す



2 ^{セット/エンター}SET/ENTERボタンを押す



「FRA CheckOK?」が表示されます。

FRA Check機能を中止するときは、DELETE/CANCELボタンまたは□ボタンを押します。

曲名やディスク名を付けるには

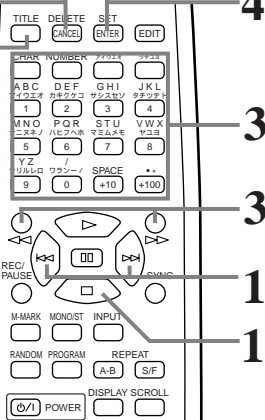
本機は、アルファベットの太文字や小文字、数字、記号を使って、曲名やディスク名を付けることができます(タイトル機能)。1曲につき250文字まで入力できます(1枚のMDで最大約1700文字。カタカナ1文字は2文字として数えます。)。この操作は、本体とリモコンの両方で行なえます。

ヒント

タイトルのアンドゥー

タイトルを付けた後にアンドゥー(取り消し)することができます(32ページ)。ただし、再生中、録音中、ポーズ中に変更したタイトルはアンドゥーできません。

DELETE/
CANCEL
2, 6



1 付けるタイトルが、曲名かディスク名かで、操作が異なります。

ディスクにタイトルをつけるとき
□ボタンを押して「DISC」を表示させる。

曲にタイトルをつけるとき
停止中、再生中、再生一時停止中に◀◀または▶▶ボタンを押してタイトルをつけたい曲番をえらぶ。
現在再生中または現在録音中の曲にタイトルをつけたいときは手順2に進む。

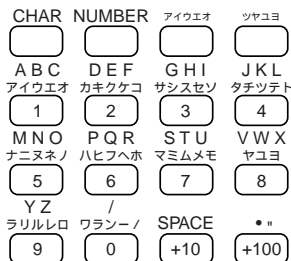
ご注意

再生中にタイトルを付ける場合、タイトルの入力が終わるまでその曲が繰り返し再生されます。
録音中にタイトルを付ける場合、タイトル入力中に次の曲を録音し始めてもタイトルは正しい曲につきます。

2 タイトル TITLEボタンを押す



3 希望の文字のアルファベット/ 数字/カタカナボタンを押す



アルファベット(大文字)
例)CHARボタンを押して「Char = ABC..」を表示させた後、ABCボタンを押すたびに「A」「B」「C」が選択できます。

アルファベット(小文字)
例)CHARボタンを押して「Char = abc..」を表示させた後、ABCボタンを押すたびに「a」「b」「c」が選択できます。

数字
例)NUMBERボタンを押した後、1ボタンを押すと「1」が、2ボタンを押すと「2」が選択できます。

カタカナ
例)CHARボタンを押して「Char = アイウ..」を表示させた後アイウエオボタンを押すたびに「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」が選択できます。
また下記ボタンを押すことにより、小さなカタカナや濁音、撥音、促音などを入力できます。



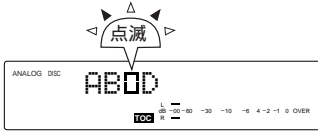
記号
どの文字/数字グループのときでも、◀◀または▶▶ボタンを押し続けて、希望の記号を選択できます。

ヒント

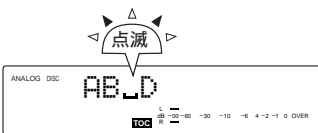
◀◀または▶▶ボタンを押し続けて、希望の文字を選ぶこともできます。

カーソル表示には2種類あります。カーソルは◀◀または▶▶を押して移動させることができます。

□カーソル カーソル位置にすでに文字がある時に表示



□カーソル カーソル位置が空白(ブランク)の時に表示



4 セット/エンター SET/ENTERボタンを押して 文字を確定する



ボタンを押すとカーソルが次の文字へ移動します。

5 手順3と4を繰り返して、希望の タイトルを表示させる

間違えた文字を修正するときは...
◀◀または▶▶ボタンで消したい文字を点滅させ、DELETE/CANCELボタンを押して文字を消します。改めて文字を入力すると、消した場所に挿入されます。

スペースを入力するには...
SPACEボタンを押す、または「□」表示の時にSET/ENTERボタンを押す。

6 タイトル TITLEボタンを押す



曲名またはディスク名が付きます。曲名またはディスク名が最初からスクロール表示されません。

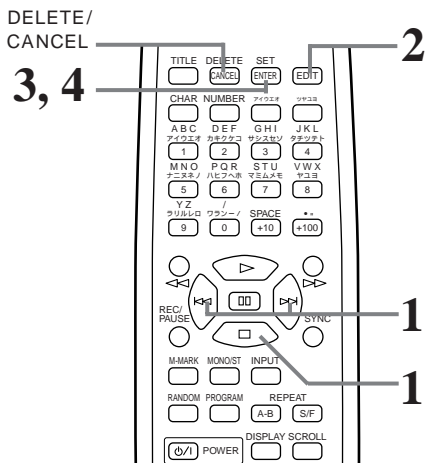
タイトルを付けるのを途中でやめるときは□ボタンを押します。

ご注意

TITLEボタンを押すまで、曲名またはディスク名は更新されません。入力が終了したら必ずTITLEボタンを押してください。

MDを編集するには

曲名やディスク名を消すには (Title Erase機能)



1 消したいタイトルが、曲名かディスク名かで、操作が異なります。

ディスクのタイトルを消したいとき
□ボタンを押して「DISC」を表示させる。

曲のタイトルを消したいとき
停止中、再生中、再生一時停止中に◀◀または▶▶ボタンを押して消したいタイトルの曲番をえらぶ。
現在再生中の曲のタイトルを消したいときは手順2に進む。

ご注意

録音中は曲名やディスク名を消すことはできません。

2 「Title Erase?」が表示されるまでEDITボタンを押す



3 セット/エンター SET/ENTERボタンを押す



ディスク名を消すときは「Disc Title」と「Erase OK?」が、曲名を消すときは「Track Title」と「Erase OK?」が交互に表示されます。

タイトルレースを中止するときにはDELETE/CANCELボタンまたは□ボタンを押します。

4 セット/エンター もう1度SET/ENTERボタンを押す



「Complete」が数秒間表示されて消えると曲名またはディスク名が消えます。

ご注意

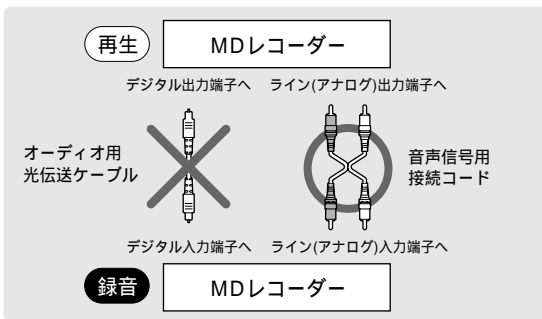
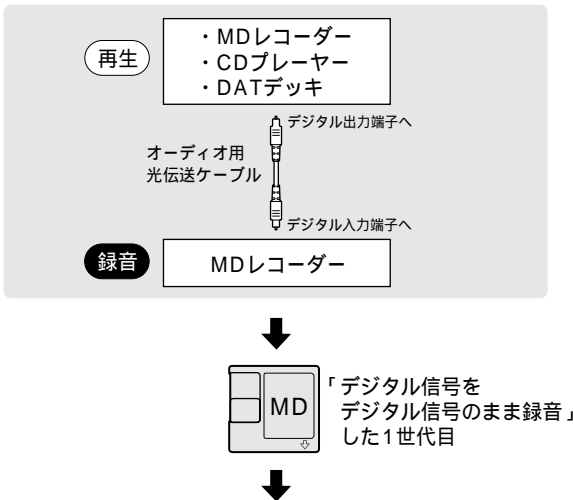
再生中、再生一時停止中にタイトルを消した場合はアンドゥー機能は働きません。

デジタル録音のルール(シリアルコピーマネージメントシステム)

デジタル入力で録音したMDをさらにデジタル録音することはできません。本機は、シリアルコピーマネージメントシステムの規格に準拠したデジタルオーディオ機器です。「シリアルコピーマネージメントシステム」は、各種デジタルオーディオ機器の間で、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」というデジタル信号どうしのコピーを「1世代まで」と規制したものです。2つの原則があります。

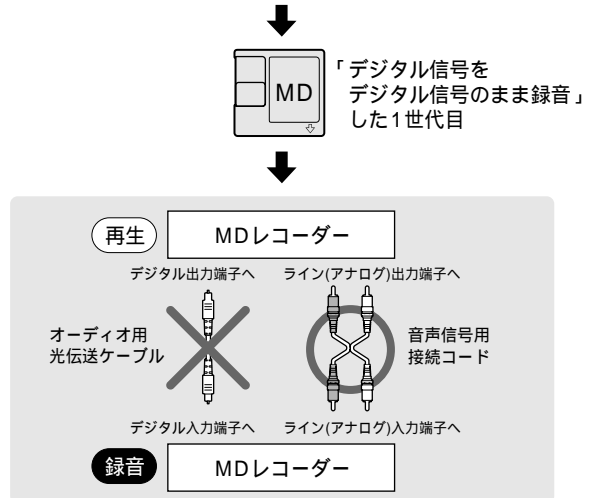
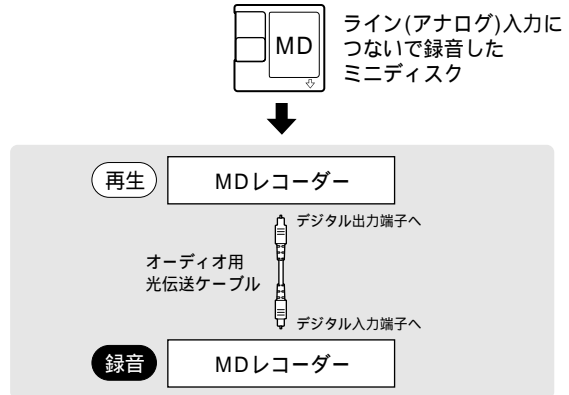
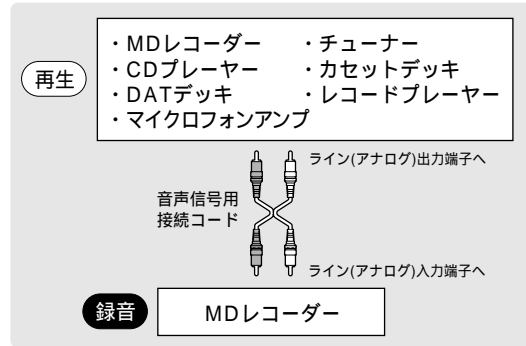
原則1

コンパクトディスク(CD)またはデジタルオーディオテープ(DAT)、ミニディスク(MD)ソフトから、MDへ「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できます。ただし、1度「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」したものを、他のMDへ、「デジタル信号のままデジタル録音」できません。



原則2

アナログレコードやFM放送などを本機で録音したMDから、他のMDへ、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」することができます。ただし、1度「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」したミニディスクから、他のミニディスクへ、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できません。



MDレコーダーどうしをアナログ端子につないだときは、何回でも録音できます。

システム上の制約について

MD(ミニディスク)システムは、従来のカセットやDATとは異なる方式で録音が行われます。そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

最大録音可能時間(60分、74分)に達していなくても、「Disc Full」が表示される。

MDシステムでは、時間に関係なく、曲数がいっぱいになると「Disc Full」の表示が出ます。255曲以上は録音できません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消すか、2枚目のMDに分けて録音してください。

曲数にも録音時間にも余裕があるのに、「Disc Full」が表示される。

曲中にエンファシス情報などの入切が多く行われると、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく「Disc Full」の表示が出ます。

短い曲を何曲消してもMDの残り時間が増えない。

MDの残り時間を表示するとき、12秒以下の部分は無視するので、短い曲を消しても時間が加算されないことがあります。

曲をつなげない。

編集を行ってできた曲は、つなぐことができない場合があります。

MDに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間(60分、74分)に一致しない場合がある。

通常、1クラスタ(約2秒)が最小単位で録音されます。それに満たないものでも2秒分のスペースを使います。このため、実際に使用できる時間は少なくなります。

また、MDに傷があると、その部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

編集でできた曲でサーチを行うと、音が途切れることがある。

曲番が正確につかないことがある。

デジタル接続でCDを録音するとき、CDの録音内容によって、短い曲ができる場合があります。また、ミュージックシンクロ録音で自動的にトラックマーキングを行った場合、録音するものの内容によっては、曲番が正確につかない場合があります。

「Toc Reading」の表示がなかなか消えない。

購入したばかりの録音用MDを入れると、通常より「Toc Reading」表示が長く表示されます。

録音済みの部分を消しながら録音(上書き録音)すると

MDの残り時間が正確に表示されないことがあります。

何度も繰り返すと、消しながら録音できなくなることがあります。

録音した時間に対して、録音後の残り時間が、録音前の残り時間よりもかなり減ってしまうことがあります。

曲の途中のノイズなどをこの方法で消すと、曲の長さが変わったりしてしてしまうので適しません。

上記のようなときは、曲を消すなどの編集を行ってから録音してください。

モノラルフォーマットのディスクでは時間が正確に表示されないことがあります。

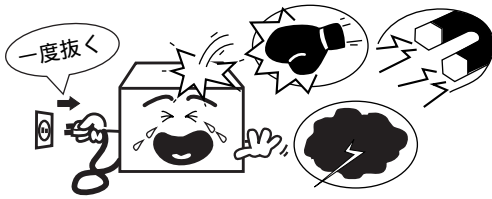
メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、英語のメッセージが出ます。日本語の意味は下の表の通りです。

メッセージ	意味	解決方法
Can't REC!	録音できない状態です。残量不足のMDで、録音を始めようとした。	ディスクを交換してください。
Can't REC	MDの書き込み不良のため録音できません。	ディスクを新しいものなどに交換してください。
Can't Edit!	エディット操作ができませんでした。	システム上の制約により、編集できません。
Can't Copy	コピー(録音)できません。	デジタル録音できない状態になっています(「デジタル録音のルール」45ページ)
DIGin Unlock	入力ソースの電源が入っていないなど、デジタル録音できない状態になっています。	「録音するときの注意」を参照してください。
Disc Full	MDの残り時間が少ないため録音できません(「システム上の制約について」46ページ)	ディスクを新しいものなどに交換してください。
Title Full!	タイトルがいっぱいです。	曲名、ディスク名にすでに250文字入力されているため(カタカナ文字は1文字を2文字として数えます。)>これ以上追加できません。
Not Audio	音楽MD以外のディスクが挿入されています。	ディスクを交換してください。
Protected	MDが誤消去防止状態(ライトプロテクトON)になっています。	ライトプロテクトを外すか、ディスクを交換してください。
Tr Protected	トラックプロテクトがかかっているため編集できません。	ディスクを交換してください。
PlayBack MD	再生専用ディスクに録音・編集しようとした。	録音用ディスクと交換してください。
Monitor Out	入力モニター中です。	-
TMP Over!!	ユニットの温度が高くなりすぎました。	電源を切り、電源コードをコンセントから外して、しばらく時間をおいてから再接続してください。
TOC Writing	TOC情報をディスクに書き込んでいます。	-
TOC Reading	TOC情報をディスクに読み込んでいます。	-
TOC Full	TOCエリアが一杯になりました。	ディスクを交換してください。
UTOC W Error	UTOC(User Table of Contents)の書き込みでエラーが発生しました。	ディスクを交換してください。
UTOC Err...	UTOCデータに異常があります。	ディスクを交換してください。
No Track	何も録音されていないディスクを操作しています。	録音をしてお使いください。

故障かな？と思ったら

次のような場合は故障でないことがありますので、修理やアフターサービスをお申し付けになる前にあらかじめお調べください。



この製品を使用中に、強い外来ノイズ（衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など）を受けた場合や誤った操作をした場合などに、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。

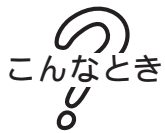
このようなときは、いったん電源差し込みプラグを抜き、約30秒後に再びつないで操作をやり直してみてください。

こんなとき

ここをおたしかめください

参照ページ

操作を受けつけない。	MDが汚れている、または損傷している（「UTOC Err...」が表示）ので新しいMDと取り替えてください。	
再生できない。	結露（内部に水滴が付着）しているのでMDを取り出して、そのまま数時間置いてください。 電源を入れてください。 MDの矢印の向きに合わせて差し込んでください。 何も録音されていないMDが入っているので、録音されているMDと取り替えてください。	15 19 19
録音できない。	MDが誤消去防止状態になっている（「Protected」が表示される）ので、MDの誤消去防止つまみをもどして孔を閉じてください。 音源と正しく接続されていないので接続し直してください。 アナログ入力（ライン入力）時に録音レベルが小さすぎるので、REC LEVEL調節つまみで録音レベルを調節してください。 録音用ディスクと取り替えてください。 残り時間が充分ある録音用ディスクと取り替えてください。または、不要な曲を消してください。 録音中に電源コードが抜かれた、または停電になったため、それまでの録音の内容は失われる恐れがあります。正常に録音できていないときは、はじめから録音し直してください。	17 9~12 18 16
雑音が多い。	テレビなどから充分離しておいてください。	
MDが途中までしか出てこない。	ロック機構がかかっています。もう1度MDを完全に押し込んで、もう一度△ボタンを押してください。	



“キーン”や“ブーン”という雑音が入る。または雑音が録音される。

使用するテレビによっては、テレビから雑音が入ることがあります。テレビと本体の位置を左右入れかえるか、雑音がなくなるまで離してください。または、テレビを消してください。

リモコンがうまく操作できない。

- 乾電池が消耗していませんか？ **14**
- 受信部に正しく向けていますか？ **14**
- 受信部との距離が遠すぎませんか？ **14**
- または近すぎませんか？
- 受信部に強い日光や照明（インバーター蛍光灯など）があたっていませんか？ **14**
- 他の機器のリモコンを同時に操作していませんか？ **14**
- 乾電池の⊕⊖が逆になっていませんか？ **14**

仕様

ミニディスクレコーダー部

形式	ミニディスク デジタルオーディオシステム
ディスク	ミニディスク
記録方式	磁界変調オーバーライト方式
再生読み取り方式	非接触光学式読み取り
レーザー	半導体レーザー
録音再生時間	最大74分 (MDW-74使用時) モノラル録音再生では倍になります。
回転数	約400 ~ 900rpm (CLV)
エラー訂正方式	ACIRC (Advanced Cross Interleave Reed-solomon Code)
サンプリング周波数	44.1kHz (48kHz、32kHzのデジタル信号は44.1kHzにレート変換されて録音されます。)
コーディング	ATRAC (Adaptive Transform Acoustic Coding)
チャンネル数	2 ch (ステレオ) 1 ch (モノラル長時間モード)
周波数特性	± 0.5dB (5 ~ 20,000Hz)
S/N比	再生時99dB以上
ワウフラッター	測定限界値 (± 0.001% W. PEAK) 以下

入出力端子

入力端子	デジタル2 (光2)、アナログ1
出力端子	デジタル1 (光1)、アナログ1
システム接続端子	ミニジャック2
アナログ入力感度	ライン 300mV / 50k
アナログ出力レベル	2.0 ± 0.5Vrms
デジタル録音レベル	MIN ~ +12 dB
デジタル入力	光受信モジュール (EIAJ)
デジタル出力	光送信モジュール (EIAJ)

電源・その他

電源	AC 100V 50/60Hz
消費電力	13 W 6.5 W (スタンバイ)
寸法	217 × 88 × 298 mm (幅 × 高さ × 奥行)
重量	3.0 kg
付属品	オーディオ接続コード × 2 光ファイバーケーブル × 1 コントロールコード × 1 リモコン × 1 単3電池 × 2 取扱説明書 × 1 保証書 × 1

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買い上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488 - 5500

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新戸屋下1-16
ヤマハ(株)汗里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内
TEL (087) 822 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL (053) 460 - 3451

品質保証室 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

